

ISSN 1343-4837

土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書第17集

久 次 遺 跡

カリヤガノ地区

新改西部地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 0 5 . 1

土佐山田町教育委員会

土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書第17集

久 次 遺 跡

カリヤガノ地区

新改西部地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 0 5 . 1

土佐山田町教育委員会



平成 4 年度（1992）調査区



平成 5 年度（1993）調査区

序 文

本県最大の穀倉地帯を誇る香長平野の東端に位置する土佐山田町は、物部川の悠久の流れに抱かれ、古くから稻作農業が盛んに行なわれてきました。しかし、近年の農業構造改善に伴い、農業経営は複雑化、多様化してきております。そうした状況のなか、本町におきましても土地改良事業や圃場整備事業が断続的に実施されております。

平成4年度から、新改西部地区において県営圃場整備が行なわれるようになり、当教育委員会では、事業に先立つ埋蔵文化財の発掘調査を平成4年度より実施し、弥生時代から近世に至る貴重な資料が得られています。このたび調査報告書として刊行することになりました本書が、今後の研究や、文化財保護思想の普及の一助となり、先人の残した歴史遺産を将来守り伝えていく契機となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査に際しては、高知県中央東耕地事務所、新改西部土地改良、高知県教育委員会、(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター、地元関係者の方々をはじめ、発掘調査から整理報告書に至るまでにご協力いただきました皆様に対し、厚くお礼申しあげます。

平成17年1月

土佐山田町教育委員委員会

教育長 原 初 恵

例言

1. 本書は、土佐山田町教育委員会が平成4・5年度に実施した新改西部地区県営圃場整備事業に伴う久次遺跡カリヤガノ地区・林田地区的発掘調査報告書である。なお、調査報告書はカリヤガノ地区・林田地区的2地区に分冊した。久次遺跡カリヤガノ地区は土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書第17集、林田地区は第18集である。
2. 久次遺跡は、高知県香美郡土佐山田町久次小字カリヤガノ616番地他に所在する。
3. 当該地の試掘調査は、平成4年10月16日から平成5年2月3日、発掘調査は、第1次調査を久次遺跡カリヤガノ地区的南部分を平成4年11月21日から平成4年12月28日、調査面積約3,000m²、つづいて北側部分の調査を平成5年9月1日から平成5年12月10日、調査面積約5,000m²である。
4. 久次遺跡林田地区は平成5年10月1日から平成5年12月11日にかけて発掘調査を行った。調査面積約4,100m²である。
5. 調査主体 土佐山田町教育委員会
調査事務 土佐山田町教育委員会

発掘調査	発掘調査	遺物整理・報告書作成
平成4年度	平成5年度	平成16年度
教育長 岡本章博	教育長 岡本章博	教育長 原初恵
社会教育課長 前田隆明	社会教育課長 前田隆明	社会教育課長 山崎泰広
調査事務 中山泰弘	調査事務 中山泰弘	整理事務 小林麻由
調査担当 中山泰弘	調査担当 中山泰弘	調査担当 中山泰弘

6. 発掘調査にあたっては、地元新改地区の方々、土佐山田町文化財保護審議会、新改中部土地改良、高知県中央東耕地事務所、高知県教育委員会、(財)高知県文化財団埋蔵文化財センターの協力を得た。また、現場発掘調査・遺物整理・図面作成業にあたって、下記の方々の協力を得た。記して感謝の意を表したい。
現場作業員 森本幸栄、小松栄一、小松 好、小松木義、浜口 興、高村秀吉、吉川 勉、山本隆則、吉川篤子、土居寿万子、池知恵美、藤村清子、大塚俊明、今井春忠、貞岡重道、佐野宣重、田村香代子、佐々木龍男、竹崎芳子、山本花子、山下厚子、高野美和、井上郁雄、山崎政子、井上静衛、坂田美都子、竹崎寛将、小野山玉喜、原 利導、岩瀬好子、山本冴子、池知誠男、小松一仁、池 実弘、吉川 節、宮本幸子、山中美代子、整理作業員 川村亜矢、島山明子、田村千代、山本有佳里、伊藤 仁、中村千代、岡林 光、竹崎寛将、高橋加奈、井上博恵、研川英征、宗石祥一、風間俊秀(高知工科大学学生)、山口 正(高知工科大学学生)
6. 本書の執筆は、福集は中山が行なった。
7. 出土遺物及び調査資料については、土佐山田町教育委員会が保管している。尚、遺物についての注記は、「92-30YHK」「93-29YHK」を使用する。
9. 遺構の名称については、SB(掘立柱建物)、ST(竪穴状遺構)、SK(土壙) SD(溝状遺構)、SE(井戸)、SX(性格不明土壙)、P(柱穴又はピット)を使用する。

目 次

第Ⅰ章 遺跡の位置と地理的・歴史的環境	
1. 地理的環境	1
2. 歴史的環境	3
第Ⅱ章 調査に至る経過と調査方法	
1. 調査に至る経過	6
2. 調査の方法	6
第Ⅲ章 調査成果	
平成4年度の調査（1992年度）	
1. 基本層序	9
2. 遺構と遺物	9
平成5年度の調査（1993年度）	
1. 基本層序	32
2. 遺構と遺物	32
第Ⅳ章 総括	
遺物観察表	

挿図目次

図1 土佐山田町位置図	2
図2 周辺の遺跡分布図・表(表1)	5
図3 久次遺跡位置図	6
図4 遺跡発掘調査位置図	7
図5 久次遺跡カリヤガノ地区調査区	8

1992年

A区

- 図6 A区ST-1遺構平面図
- 図7 A区ST-1出土遺物
- 図8 A区ST-2遺構平面図
- 図9 A区ST-2出土遺物
- 図10 A区ST-3遺構平面図
- 図11 A区ST-4遺構平面図
- 図12 A区ST-4出土遺物
- 図13 A区ST-5遺構平面図
- 図14 A区ST-5出土遺物
- 図15 A区ST-6遺構平面図
- 図16 A区ST-6出土遺物
- 図17 A区II層出土遺物

B区

- 図18 B区ST-1遺構平面図
- 図19 B区ST-1出土遺物
- 図20 B区ST-2遺構平面図
- 図21 B区ST-2出土遺物
- 図22 B区ST-3遺構平面図
- 図23 B区ST-3出土遺物
- 図24 B区ST-4遺構平面図
- 図25 B区ST-5遺構平面図
- 図26 B区ST-5出土遺物
- 図27 B区ST-6遺構平面図
- 図28 B区ST-6出土遺物
- 図29 B区ST-7出土遺物
- 図30 B区ST-8遺構平面図
- 図31 B区ST-9出土遺物
- 図32 B区P・SD・II層出土遺物

C区

- 図33 C区ST-1遺構平面図
- 図34 C区ST-1出土遺物
- 図35 C区SK-1・2出土遺物
- 図36 C区II層 出土遺物

1993年

A区

- 図37 A区ST-1遺構平面図
- 図38 A区ST-1出土遺物
- 図39 A区ST-2遺構平面図
- 図40 A区ST-2出土遺物
- 図41 A区ST-3遺構平面図
- 図42 A区ST-3出土遺物
- 図43 A区ST-4遺構平面図
- 図44 A区ST-4出土遺物
- 図45 A区ST-5遺構平面図
- 図46 A区ST-5出土遺物
- 図47 A区SK・P出土遺物
- 図48 A区II層 出土遺物

B区

- 図49 B区ST-1遺構平面図
- 図50 B区ST-1出土遺物
- 図51 B区ST-1遺構平面図
- 図52 B区ST-1出土遺物
- 図53 B区SK・SD・P・II層 出土遺物

附属全体図

- 図54 遺構全体平面図
- 表2 遺構計測表（据立柱建物跡・塙跡・土壤）

写真図版

- 卷頭カラー1 平成4年度（1992）調査区
- 卷頭カラー2 平成5年度（1993）調査区

遺構写真

- 図版1～8 遺構写真（1992）
- 図版9～16 遺構写真（1993）

遺物写真

- 図版17～26 遺物写真（1992）
- 図版27～42 遺物写真（1993）

第Ⅰ章 遺跡の位置と地理的・歴史的環境

1. 地理的環境

土佐山田町は、高知県の中央東寄りに位置し、県下第3位の川である物部川の中流域に位置する。物部川により形成された沖積平野に県下最大の穀倉地帯である高知平野の北端に位置し、物部川の洪積台地及び四国山地の一部を含む。

この物部川は、県北東部の香美郡部村、剣山山系の白髮山（1,770m）の東斜面に源流を発し、高知平野東部の同郡吉川村で土佐湾に注ぐ。上・中流域は仏像構造線に沿って直線的に西南西流しており、流路に沿った上流へのルートは古来阿波国への最短距離として知られている。物部川に沿う山間部には発達した河岸段丘が発達し^②、土佐山田町で流路を南に変え南流する。土佐山田町神母の木付近において平野部に流入し、肥沃な高知平野を継続する。

高知平野東部を成す香長平野は不整形の扇状地で物部川両岸には鏡野^③、山田野^④と言われる古期扇状地の砂礫層から成る洪積台地を形成している。この台地は長岡台地と称される。長岡台地は、香長平野の北部を土佐山田町から南国市にまたがり、北東から南西に約5km連なる。洪積世中期以降に形成された比較的連続性に富んだ砂礫台地で隆起性扇状地である。標高は扇頂部に近い土佐山田町付近では約50mに達し南西に緩やかに傾斜し、扇窓部の南国市後免町付近では15m～10mである。台地面の北西側は国分川流域に扇状地性低地、南東側は物部川下流域の扇状地性低地に対して段丘面を持って接している。台地は河床から5m内外の標高を持ち、台地の間に新期扇状地が広がり、北端部は国分川の浸食により断崖を形成する。洪積台地には旧石器時代の遺跡は発見されていないが物部川河岸段丘両岸の山麓部^⑤、国分川水系である砥川の発生する山間部の山麓部^⑥で確認されている。また绳文時代の遺跡も旧石器時代の遺跡とほぼ同じ位置に所在する^⑦。新期扇状地から沖積平野にかけての大地には県下最大の遺跡群、田村遺跡群（弥生時代～近世）^⑧を始め大篠遺跡（弥生時代）^⑨が分布する。また、条里制地割の遺構が広く認められるが、旧物部川により洪水氾濫をたびたび繰り返しており、条里制地割の乱れた地域も多く、旧流路も數本認められる。

土佐山田町の市街地が乗っている扇頂部部分付近は周囲に比べて高位な面となり、南部に一段低い下位面があり、二段の段丘面となっている。中央部から末端部は低地性氾濫原に向かって緩やかに台地斜面が傾斜し、特に南西端は扇状地性低地の粗粒性沖積層に埋没しており湧水地帯となって小河川が流出し湿地帯を形成している。土壤は多湿黒ボク土壤であり、層の厚さは20cm～50cm以上で下層は灰色か灰褐色の場合が多い。台地面は自然の河流が無く江戸時代以前は開発が遅れていたが、江戸時代初期、土佐藩奉行野中兼山が物部川に山田堰を築き、灌漑水路を設けたことによって台地面にも導水が行なわれた。開発には、郷士が登用され、台地上には旧郷士屋敷が散在し、散村の景観を呈している。また、後免・土佐山田・野市の在郷町もこの時期に形成されたものである。灌漑用水により、かつては米の二期作が盛んであり、現在も高知平野の水田地帯の一部であるが、乾田であるため、古来、業タバコ・野菜の栽培も盛んである。近年はビニールハウスの施設園芸も増加してきている。町域面積の70%を森林地帯で占め、林業が盛んで良材を多く産出する。工業は、地場産業の打刃物などがある。扇頂部の土佐山田町は物部川上流部と香長平野の接点に立地した谷口集落でもある。台地面はかつて開発の主体となつた郷士屋敷の点在する散村形態がみられ、現在もさの景観の名残がみられる。台地面の長輪（北東～南西方向）にはほぼ沿う方向でJR土讃本線及び国道195号線が直線的に通過している。東にある三宝山の中腹には国指定史跡及び天然記念物である龍河洞があり、県下でも有数の観光地となっている。

註

(1)『南国市史』 上巻 南国市教育委員会 1979

(2)『野市町史』 上巻 野市町教育委員会 1992

- (3)『土佐山田町史』土佐山田町教育委員会 1979
- (4)佐野楠目山からは石核、剥片などが表面採集されている。
- (5)新改西谷遺跡からはナイフ型石器が多量に出土している。
- (6)新改屋舗田丸遺跡、林田シタノチ遺跡、刈谷我野遺跡などがあげられる。
- (7)『田村遺跡群 高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』第1分冊～第15分冊 1986 高知県教育委員会
- (8)註(1)同じ

参考文献

- 『土佐山田町史』土佐山田町教育委員会 1979
 『角川 日本地名大辞典 39高知県』 角川書店 1986



図1 土佐山田町位置図

2. 歴史的環境

土佐山田町は、地理的に恵まれ、県下最大の穀倉地帯である香長平野の一画に位置することから原始以来、脈々とした人の営みを台地に刻み付けている。また、南に隣接する南国市とともに県下屈指の遺跡密集地帯である。

土佐山田町の歴史は、北部山麓部の西谷遺跡^①の調査により旧石器時代後期に始まる。二次堆積遺物ではあるがチャート製のナイフ型石器が多量に出土し、遺跡の立地など奥谷南遺跡^②と非常に似ている。続く、縄文時代では、新改川の河岸段丘に立地する屋舎田丸遺跡^③より早期押型文系土器が出土し、また新改川支流の砥川左岸の小山田遺跡^④からは、晩期の土壙4基と突宍文土器が出土し、北部山間部に所在する銅古屋岩陰遺跡^⑤からは早期押型文土器、厚手無紋の葛島式土器、中期の船元II式土器、後期の彦崎KII式土器とともに多量のサヌカイト製の石礫が出土している。また、東部物部川左岸の段丘上、林田シタノヂ遺跡^⑥が存在するが、ここでは、ピット状遺構から後期初頭の中津式土器が出土している。

弥生時代では前期に属する遺跡のは至っておらず、今のところ中期後半に位置づけられる龍河洞洞穴遺跡^⑦が最古である。この遺跡は全山石灰岩でできた三宝山(322m)の中腹に開口した洞穴遺跡で、昭和8年に遺跡の部分が発見され、翌9年に天然記念物及び史跡として国指定を受けている。洞内の生活面は3室からなり、出土遺物は円線文の発達した龍河洞式土器をはじめ、鉄族、石錘、有孔旋角製品、貝輪、骨製管玉、瑪瑙製勾玉等の装身具、貝類、獸骨類の自然遺物などである。また、龍河洞式土器に混在してただ一点、弥生時代後期末のヒビノキII式土器が出土している。龍河洞洞穴遺跡と同時期とみられる遺跡に、予岳遺跡^⑧、雪ヶ峰遺跡^⑨、影山遺跡^⑩がある。中期後半に属する遺跡は多く原遺跡^⑪、原南遺跡^⑫からは堅穴住居跡とともに環濠と思われる溝や掘立柱建物跡等集落を構成する遺構も発見されている。その北部台地上には、弥生時代後半～古墳時代初頭の土器群が出土したひびのき遺跡^⑬が存在する。これらの土器群はヒビノキI～ヒビノキIII式土器と命名され、高知県中央部以東の標準式土器とされていると同時に、同遺跡がその時期に集落遺跡として栄えたことを示している。弥生時代も後期となると遺跡数、規模の拡大がみられ、特に同遺跡に代表されるよる後期後半に属する遺跡の急増が認められる。隣接するひびのきサウジ遺跡^⑭では、弥生時代後期後半の堅穴住居跡が5棟検出されており、この内1棟は祭祀的意味を持つものと考えられている。また、物部川左岸には林田遺跡^⑮が存在する。ここからは堅穴住居跡5棟が検出され、土器と共に多量の鉄族が出土している。

古墳時代では、小円墳・横穴式石室・群集といった特徴を持つ後期古墳が存在し、山麓部を中心に知られている。中でも、ひびのき遺跡に近い伏原大塚古墳^⑯は、5世紀末から6世紀初頭に築造されたと考えられる。また、この古墳の周辺からは須恵器の円筒埴輪が出土している。この期の須恵器の窯跡は今のところ発見されていないが、当古墳の埴輪の存在を考えれば、出現期は少なくとも築造期と同時期まで遡ることは可能であろう。また、これらの遺跡を特徴づける遺跡として当町北部の新改地区とその周辺に所在する須江古窯跡群^⑰を挙げることができる奈良時代から平安時代にかけての須恵器、瓦焼成の窯跡が現在40数カ所確認されている。窯跡の中には比江廃寺跡^⑱の瓦を焼成したタンガン窯跡^⑲や土佐国分寺の平瓦を焼成した東谷窯跡^⑳も存在し、また新改川左岸の河岸段丘に所在する須江上段遺跡^㉑、須江北遺跡^㉒からは官衙的掘立柱跡や多量の須恵器、土師器が出土している。特に須恵器には湾曲した遺物が混在しており、須恵器生産に係わる遺跡と考えられる。なお、新改、須江地区は、その西方約2kmに土佐国府を控えていることから国府と密接な結びつきが想定される。

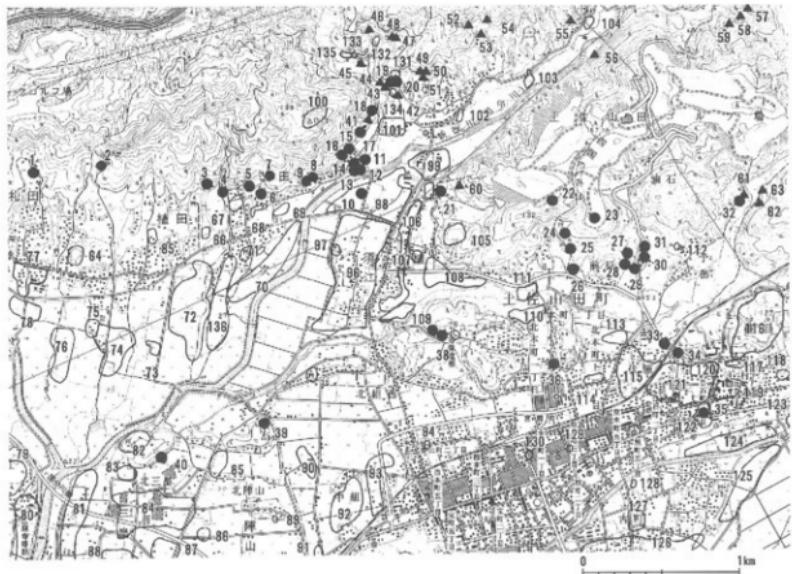
当町南部の沖積平野は高知県最大の平野、香長平野北端部にあたり、広く古代の条里制遺構^㉓を残している。また、「大領」・「田倉」・「宮毛田」等の地名があり、周辺からは、古代の遺物が表面採集され古代香美郡の郡の推定地^㉔と考えられる。

中世では、土佐戦国七雄に數えられる山田氏^㉕が健久4年(1193)に土佐国へ入部以来、勢力をのばし、楠目の山田城を本拠^㉖に領主制支配を行なうが、長宗我部氏により天文期頃攻撃を受けて滅亡する。

近世にはいり野中兼山^㉗による山田堰、上、中、舟入川の三用水の敷設等による長岡台地の開発により在郷町^㉘として香美郡北部の山間地域と南部の平野部との接点として物産集散地となり、高知城下町の経済圏域として発展し、今日に至る。

註

- (1) 西谷遺跡「土佐山田史談」第25号「土佐山田町における考古学の成果と課題(VI)」2000
- (2)『奥谷南遺跡Ⅰ』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 1999
- (3)『理文こうち』第14号 P13 高知県教育委員会文化財保護室 2000
- (4) 小山田遺跡 註1と同じ
- (5)『飼古屋岩陰遺跡発掘調査報告書』日本道路公團・高知県教育委員会 1983
- (6)『林田シタノチ遺跡Ⅱ 農村基盤総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』土佐山田町教育委員会 1993
- (7)『龍河洞』高知県教育委員会 1959
- (8)『土佐山田町史』 P52 土佐山田町教育委員会 1979
- (9) 註8と同じP52
- (10) 註8と同じP52
- (11)『公共施設設置に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -原遺跡-』高知県教育委員会 1982
「公共施設設置に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -原遺跡Ⅱ-」「高知県文化財調査報告書」第25集 高知県教育委員会 1984
- (12)『原南遺跡発掘調査報告書』高知県文化財団 1991
- (13)『ひびのき遺跡』土佐山田町教育委員会 1977
- (14)『ひびのきサウジ遺跡発掘調査報告書』(土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第8集) 土佐山田町教育委員会 1990
- (15)『林田遺跡発掘調査報告書』土佐山田町教育委員会 1985
- (16)『伏原大塚古墳』(土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第14集) 土佐山田町教育委員会 1993
- (17) 註8と同じ
- (18)『高知県文化財調査報告書第16集 高知県比江庵寺跡』高知県教育委員会 1970 「高知県埋蔵文化財報告書 第33集 比江庵寺跡発掘調査概報』高知県教育委員会 1991
- (19) 註8と同じ
- (20)『新改東谷古窯跡群発掘調査』土佐山田町教育委員会 1978
- (21)『土佐山田北部遺跡群-山田北部県営は場整備事業に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書-』(土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第12集) 土佐山田町教育委員会 1992
- (22) 註21と同じ
- (23)岡本健児 「土佐神道考古学5」「土佐史談」第120号
- (24) 註8と同じ
- (25) 註8と同じ
- (26) 註8と同じ
- (27) 註8と同じ



番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代
1	中山田古墳	古墳	35	伏原1号古墳	古墳	69	東山田遺跡	弥生～古墳	103	三反田古墳跡	平安
2	高松古墳	*	36	八王寺西古墳	*	70	改田母母遺跡	古墳～平安	104	人野山南遺跡	平安・中世
3	越山古墳群	*	37	南山1・2号古墳	*	71	久次ノ山居城跡	中世	105	種村城跡	中世
4	西久保古墳	*	38	山田1号古墳	*	72	ハザダ古跡	古墳～平安	106	種カドリ遺跡	弥生・西
5	次郎ヶ谷西古墳	*	39	神山古墳	*	73	畑田道跡	*	107	横山土居遺跡	平安・中世
6	次郎ヶ谷古墳	*	40	三島古墳	*	74	系ケ内塚跡	*	108	西クリレリ遺跡	弥生～近世
7	田村氏古墳	*	41	西ノ内空跡	*	75	糸ノ坂城跡	中世	109	モジリワ遺跡	*
8	龜ヶ谷1号古墳	*	42	小山田1号塚跡	古墳・奈良	76	白鷺山古跡	古墳～平安	110	舟ノ瀬古跡	中世
9	龜ヶ谷2号古墳	*	43	小山田2号塚跡	*	77	中ノ上城跡	中世	111	植キノヨキ遺跡	*
10	頭山ワカナ古墳	*	44	小山田3号塚跡	*	78	前崎道跡	平安～中世	112	山田氏家代墓所	*
11	新改古墳	*	45	西谷1・2・3号塚	奈良	79	比江山城跡	中世	113	メウガミ遺跡	弥生～中世
12	新改2号古墳	*	46	東谷1号空跡	奈良・平安	80	比江城跡	飛鳥・奈良	114	美谷子遺跡	古墳～平安
13	新改3号古墳	*	47	東谷2号空跡	*	81	洞ノ口遺跡	弥生～平安	115	伏原城跡	弥生～平安
14	新改4号古墳	*	48	東谷2号空跡	*	82	南傳舟遺跡	古墳	116	植目城跡	中世
15	稚山1号古墳	*	49	林ノ谷1号塚跡	*	83	三島城跡	中世	117	ひびのさだ内河遺跡	弥生～近世
16	稚山2号古墳	*	50	林ノ谷2号塚跡	*	84	三島遺跡	弥生～平安	118	田所津古跡	弥生～中世
17	西ノ内1号古墳	*	51	林ノ谷3号塚跡	*	85	三町遺跡	古墳～中世	119	ひびの3号遺跡	弥生・古墳
18	西ノ内2号古墳	*	52	大谷1号空跡	*	86	白山遺跡	古墳～平安	120	ひびの4号遺跡	弥生～中世
19	小山田2号古墳	*	53	大谷2号塚跡	*	87	水道遺跡	弥生～平安	121	ひびの5号やうじ跡	弥生～近世
20	小山田3号古墳	*	54	大谷3号空跡	*	88	垂垂遺跡	奈良～中世	122	大塚遺跡	*
21	タンガン古墳	*	55	八ノ谷空跡	平安	89	有光北山遺跡	平安	123	大西土居遺跡	弥生
22	深坂古墳	*	56	植セイイ施跡	古墳・奈良	90	浜造の古道跡	古墳～平安	124	植目遺跡	弥生～近世
23	枝坂古墳	*	57	大塙寺1・2・3号塚	古墳	91	山田三ツ又西遺跡	*	125	種荷前遺跡	*
24	枝坂古跡	*	58	大塙寺1・2・3号塚	奈良・平安	92	山田三ツ又道路	*	126	原遺跡	弥生～近世
25	中伊古墳	*	59	大塙寺1・2・3号塚	奈良	93	山田1・2又東遺跡	弥生～中世	127	吉町西遺跡	弥生～平安
26	溝内古墳	*	60	タンガン・室跡	飛鳥	94	谷底遠都跡	近世	128	占町北遺跡	弥生・古墳
27	龜ヶ谷古墳	*	61	手岳空跡	古墳	95	界中神社	近世	129	公雲の井口2	近世
28	御行山1号古墳	*	62	長谷山1号塚跡	平安	96	領江上段遺跡	古墳～近世	130	公雲の井口1	*
29	前行山1号古墳	*	63	長谷山2号塚跡	*	97	領江駿跡	平安	131	松本山長久寺跡	中世・近世
30	母神古墳	*	64	東ノ上石造跡	古墳～中世	98	領江北遺跡	古墳～平安	132	新福寺跡	*
31	大元神社古墳	*	65	植上1号城跡	*	99	葛原津社遺跡	奈良～中世	133	新奈寺跡	*
32	大元神社北古墳	*	66	寺中遺跡	古墳～平安	100	改田母母城跡	中世	134	小山田遺跡	萬葉・奈良・平安
33	牛筋古墳	*	67	北野遺跡	古墳～中世	101	南ヶ丘内遺跡	弥生～中世	135	西谷遺跡	旧石器
34	小倉山古墳	*	68	辻谷田遺跡	古墳～平安	102	原前田遺跡	中世	136	久次遺跡	新全古代・中世

表1・図2 周辺の遺跡分布図・表

第Ⅱ章 調査に至る経過と調査方法

1. 調査に至る経過

近年、農業の規模拡大等の整備政策が進められ、農業構造改善事業として、圃場整備事業が行なわれている。当新改地区においても改良組合が設立され、山田北部地区土地改良、新改西部土地改良、新改中部土地改良と3改良区が高知県営圃場整備事業を計画、施工している。

新改西部土地改良区内は県下でも有数の埋蔵文化財包蔵地であり、土佐山田町教育委員会は工事計画との調整資料を得るために、平成4・5・6年度に文化庁国庫補助金により遺跡の範囲確認のための試掘調査を実施し、基礎データを得た。その後、事業施工による埋蔵文化財の保存協議を高知県中央耕地事務所、新改西部地区土地改良区、土佐山田町教育委員会の三者で協議をおこなった。その結果、盛土工法等による計画変更がなされたが一部施工計画が変更できない箇所について、遺構の記録保存を図る調整協議がされ、記録保存のための発掘調査を実施した。

2. 調査の方法

試掘調査の結果により、水路、農道、削平部の調査区を設定し、耕作土を等の表土を主に重機により除去せを行ない、遺構検出面または、遺物包含層直上まで掘削を行なった後、人力による発掘、精査を行なった。遺構、遺物の出土状況及び土層等については、写真撮影を行なった後、平面図及び断面図を作成した。遺物の取り上げ、遺物の実測については、任意座標に基づいて地区全体に4m方眼をかけ記録、実測を行なった。平面実測、及び地層断面については、20分の1を基本とし、必要に応じて10分の1の実測を行なった。

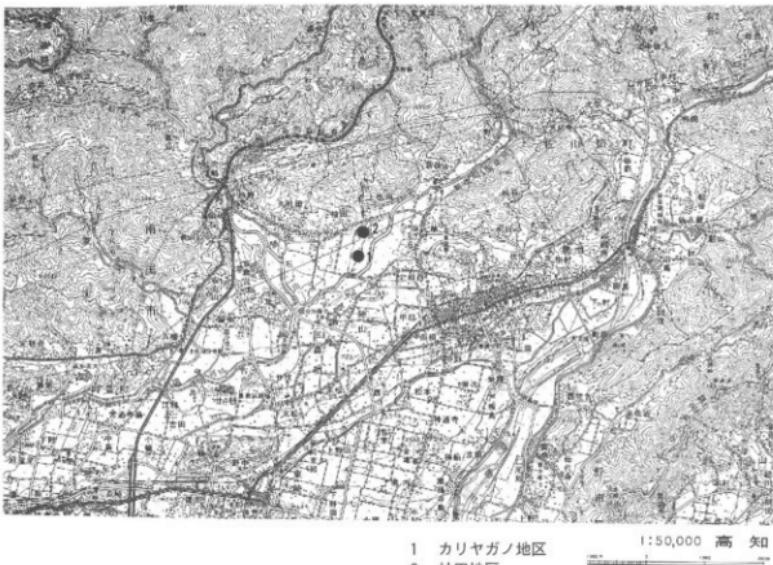


図3 久次遺跡位置図

0 100 200 300 400 m

図4 道勢空撮調査位置図（カリヤガノ地区）
(林田地区)



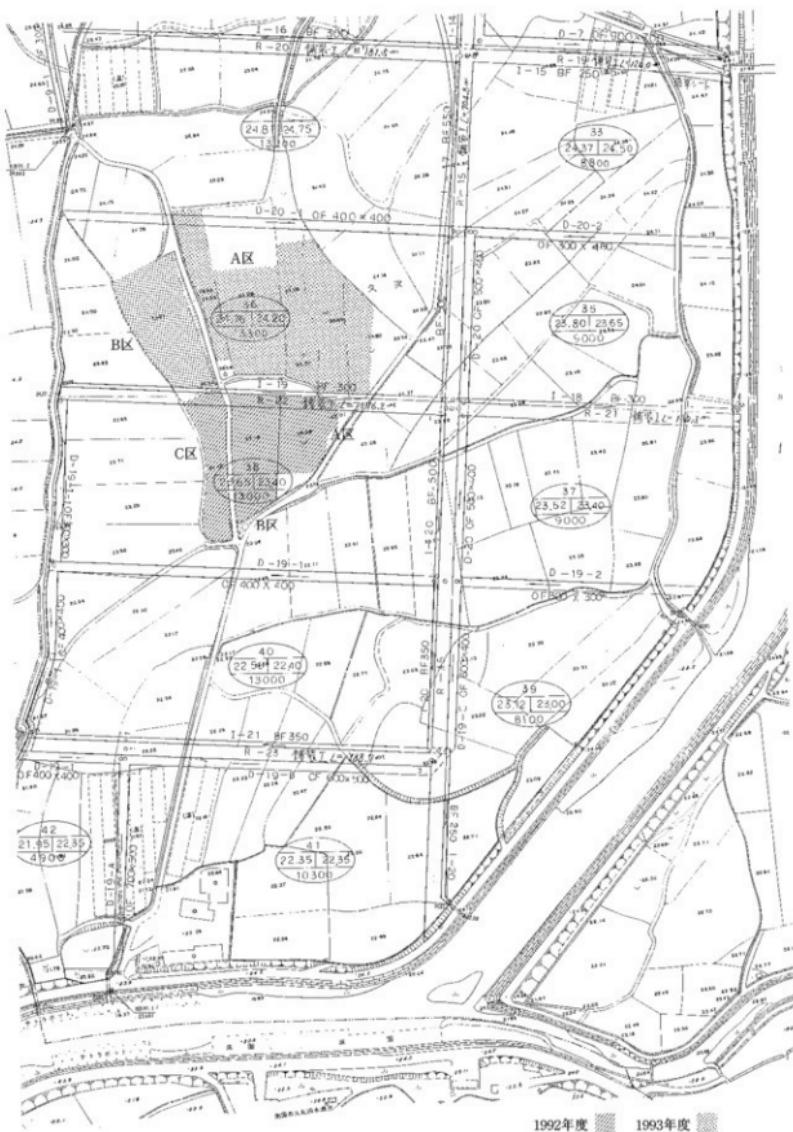


図5 久次遺跡カリヤガノ地区調査区

第Ⅲ章 調査成果

平成4年度の調査（1992年度）

平成4年度の調査は、カリヤガノ地区的南側部分の調査を実施した。当地区は舌状の形をした微高地でありこの微高地を境として東側と南側は新改川（国分川）により形成された低地地帯の地形をなしている。

調査区は旧農地の圭形で区画し、東側よりA区、B区、C区の3地区に分けた。A区からは竪穴住居跡6棟と溝跡、ピット、土坑等、B区は竪穴住居跡9棟と溝跡、ピット、土坑等がC区からは竪穴住居跡1棟、溝跡、土坑、ピットが検出された。ただしA区とB区の境から住居跡が検出されたためA区のST-3はB区のST-7とA区のST-1とB区のST-9は同一住居跡である。以下各遺構とその遺物の概要を述べることにする。なお、遺物に関しては遺物観察表を参照されたい。

1. 基本層序

当地区の全調査区（1992年度、1993年度）を通してI層は耕作土（床土を含む）、II層は無く床土を剥ぐと遺構が検出でき、床土の直下は遺構面に達する。微高地の周辺部の低地に接する付近ではI層の次に黒色土層（クロボク）のII層が検出できる。II層には弥生時代から中世の遺物が混在しており遺物包含層である。II層下は遺構面に達するが、遺構の削り込み地層であるIII層は全調査区の半分以上が砂礫と粘質土層で一部に黒色土層が見られる。

2. 遺構と遺物

A区

竪穴住居跡1（A区ST-1）（B区ST-9）（図6）

A区調査区の西側中央部に位置する。住居跡は隅丸方形の形を呈し、南西の隅はST-2と切り合う。南北4.40m、東西約4.5mで検出面からの深さは住居跡北側で30cm、南側で28cm、西側29cm、東側で28cmではほぼ水平である。住居跡内の遺構はピットがある。特にが跡は確認できない。住居跡内は単一の黒色土層で、埋土層からは炭を含む拳大から人頭大の石と弥生土器が出土した。

出土遺物（図7）

住居跡からの遺物では碗（1.2.3）、鉢（5.6.7.8.9.10）、壺（11.12.13.14.15.16.17.18）、壺（26.27.28.29）、高杯（30）、土製支脚（33）が出土している。鉢は内面に刷毛目がみられ、外面には僅かに叩き目がみられる。碗は口縁部内面に縞又は横の刷毛目が見られ、胴部内面は指圧によるナデ調整を施し、外面は叩き目、刷毛目がみられる。高杯は脚部の破片で小孔がある。土製支脚は筒型状をなし、全面に指圧調整と叩き目が施されている。なお、住居跡の出土遺物には須恵器、土師器、土師質土器、瓦質土器の混入がみられ、住居遺構にこれらの時期にわたる遺構が切り合っていたと考えられる。土師器の杯（35）は外面に範による丁寧な調整がみられ、内面には暗文がみられる。土師質土器（36）は、ほぼ精錬された胎土をもち底部は回転糸切りがみられる。

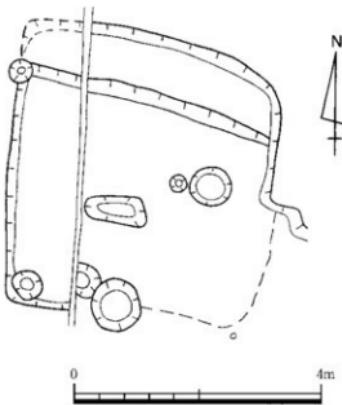


図6 A区-ST-1 遺構平面図



図 7-1 92-A区-ST1出土遺物

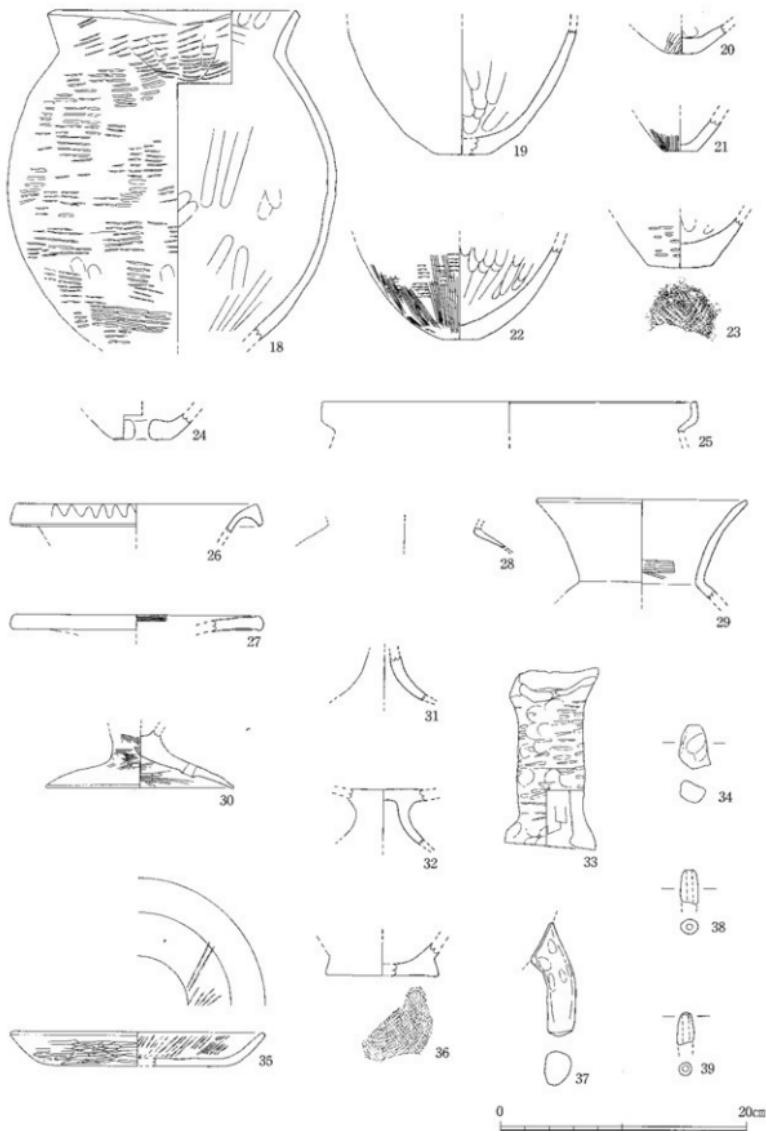


図 7-2 92-A区-ST1出土遺物

堅穴住居跡 2 (A区 ST - 2) (図8)

A区中央西側に位置する。平面プランはほぼ方形の堅穴住居跡で、北西の隅はST-1と切り合う。住居跡は南北約4.90m、東西約4.80mである。深さは検出面からの深さでは住居跡東側0.25m、西側0.37m、東側0.25m、北側0.28、を計りほぼ水平な面をなす。住居跡の遺構はピットが見られるが、炉跡の土坑はみられない。住居跡の上層部からは炭の小片が混ざった土層より遺物が出土している。住居跡内の土層は黒色土層の單一土層である。

出土遺物 (図9)

住居址からは弥生土器の壺、壺、高杯、紡錘車と須恵器が出土している。壺(3.4.5.6.)は口縁部内側に刷毛による調整が施され、胴部内面は指圧による籠ナデがみられ、外面は叩き目がみられる。壺(12)は口縁部内外面には刷毛目がみられる。高杯(13.14.16.17)は杯部

内面に横ナデ調整がみられ、脚部は短く小孔があるものと無いものがある。また紡錘車(19)はソロバン玉状の形で直径3.1cm、孔径2.5cmを計る。須恵器の梶(20)は精練された胎土で高台付梶の底部の破片である。当住居跡内に古代の遺構が複合していたと考えられるが遺構検出時には確認できなかった。

堅穴住居跡 3 (A区 ST - 3) (B区 ST - 7) (図10)

A区の西側中央部に位置する。2/3は調査区B区にはいる。ほぼ長方形の形を呈すが、東側で隅丸方形、西側で崩れた溝丸方形となる。南北約5.4m、東西約4.7mで、遺構検出面からの深さは北側で5cm、南側で3.2cm、東側で6.2cm、西側で3.4cmを測る。住居跡内にはピットが検出されているが炉は不明である。埋土は黒色土層である。

出土遺物 (図29)

隣接調査区のB区が遺構検出の1/3であるためB区のST-7で出土遺物の報告をする。

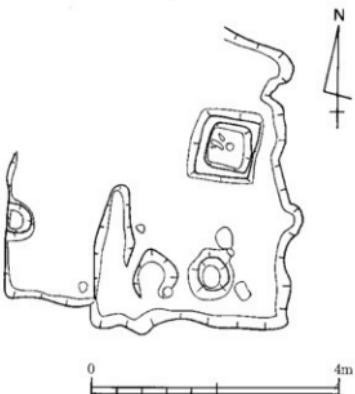


図8 A区-ST-2 遺構平面図

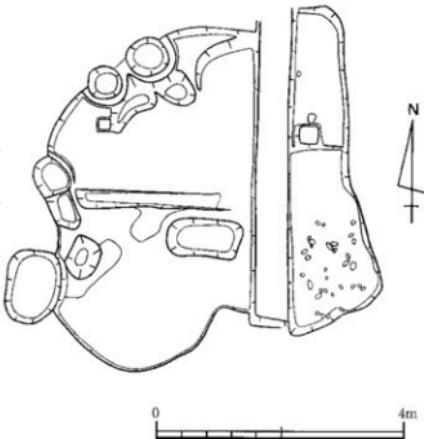


図10 A区-ST-3 遺構平面図

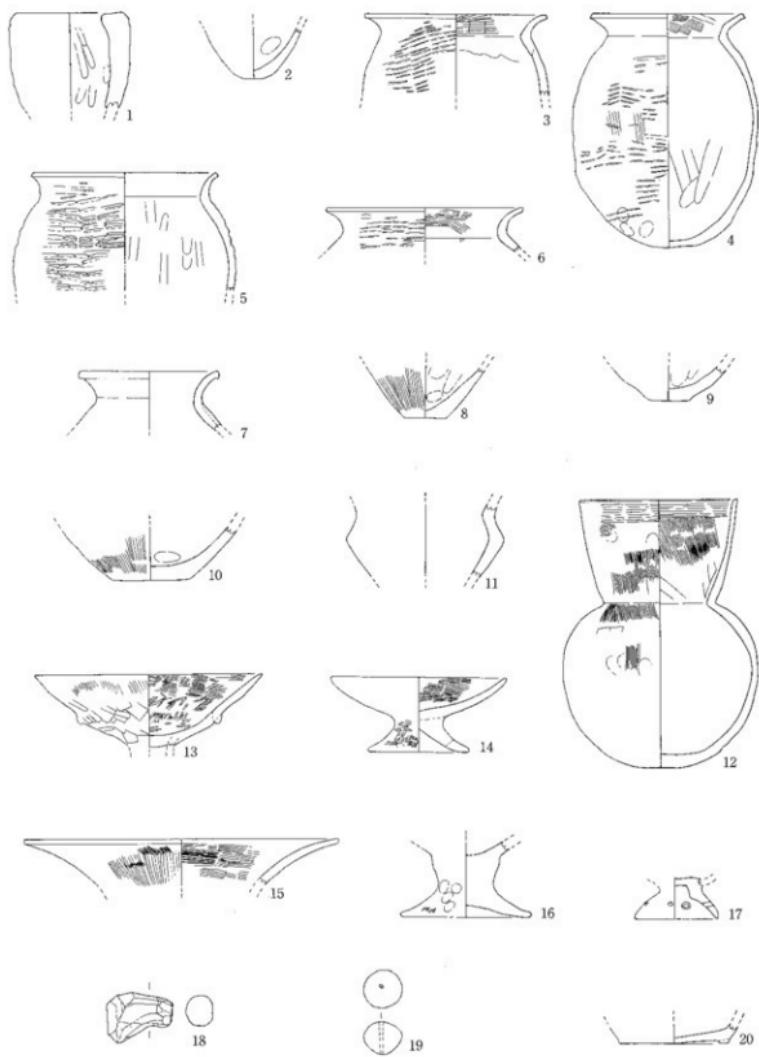


図9-1 92-A区-ST 2出土遺物

豊穴住跡4（A区ST-4）（図11）

A区の東側中央部に位置する。隅丸方形を呈する。南北約5.5m、東西約5.5mで、造構検出面からの深さは北側で30cm、南側で35cm、東側で38cm、西側で33cmを測りほぼ水平である。住居跡内にはピットが検出されているが柱穴は少ない。炉は中央部より少し南側にある。北側にはベッド状造構があり幅約90cm、で住居跡の半分を壁に沿ってあり、平面の形状は「コ」の字状になる。ベット状造構と住居跡床面は20cmである。埋土は黒色土層である。土層は、多量の弥生土器と炭が少量と拳大の石がやや混じっている。

出土遺物（図12）

住居跡内からは多量の遺物が出土している。椀、鉢、甕、壺、高杯、石器などのほか古代、中世の遺物が若干出土している。椀は指圧ナデ、刷毛目調整がみられ、鉢は内面に刷毛目調整、外面に叩き目、甕も同じく内面に刷毛目調整と指圧ナデ、外面には叩き目がある。壺は口縁部を大きくラッバ状に開くものもある。内面刷毛目、外面も刷毛目調整を施している。

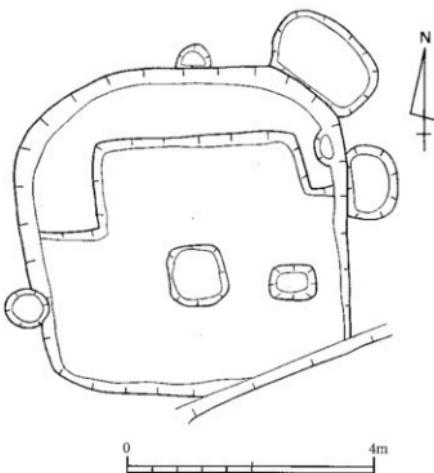


図11 A区-ST-4 造構平面図

豊穴住跡5（A区ST-5）（図13）

A区の東側北部隅に位置する。隅丸方形を呈する。南北約5m、東西約4.9mで、造構検出面からの深さは北側で38cm、南側で41cm、東側で38cm、西側で37cmを測りほぼ水平である。住居跡内にはピットが8個検出されている。住居内には壁に沿って幅約20cmから40cmの周溝が東側の壁の一部を除いて一周する。炉跡は明確でない。

東側外壁部分から溝状の造構が東側に向けて突き出しながらみられる。また溝状造構にはピットが存在する。前述した住居跡内の周溝が東壁側には無くまた東壁も一部存在しないことから豊穴住居の出入り口部分で屋根付きの構造を有していると推定される。埋土は黒色土層である。

出土遺物（図14）

遺物は弥生土器と須恵器で大型の器の底部と甕、椀が出土している。甕（2）は口縁部に刷毛目があり胴部には指圧ナデの調整がみられ、外面には叩き目と刷毛目調整が施されている。須恵器蓋（4）で豊穴住居跡内に古代の造構が切り合っていたと考えられる。

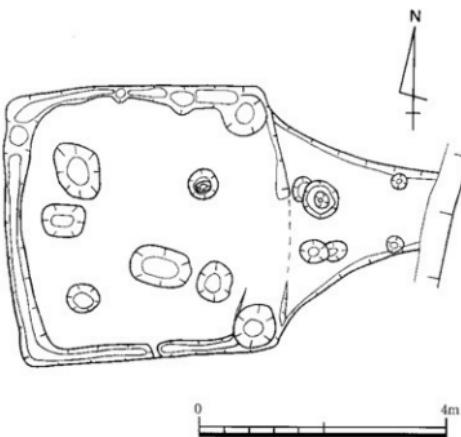


図13 A区-ST-5 造構平面図

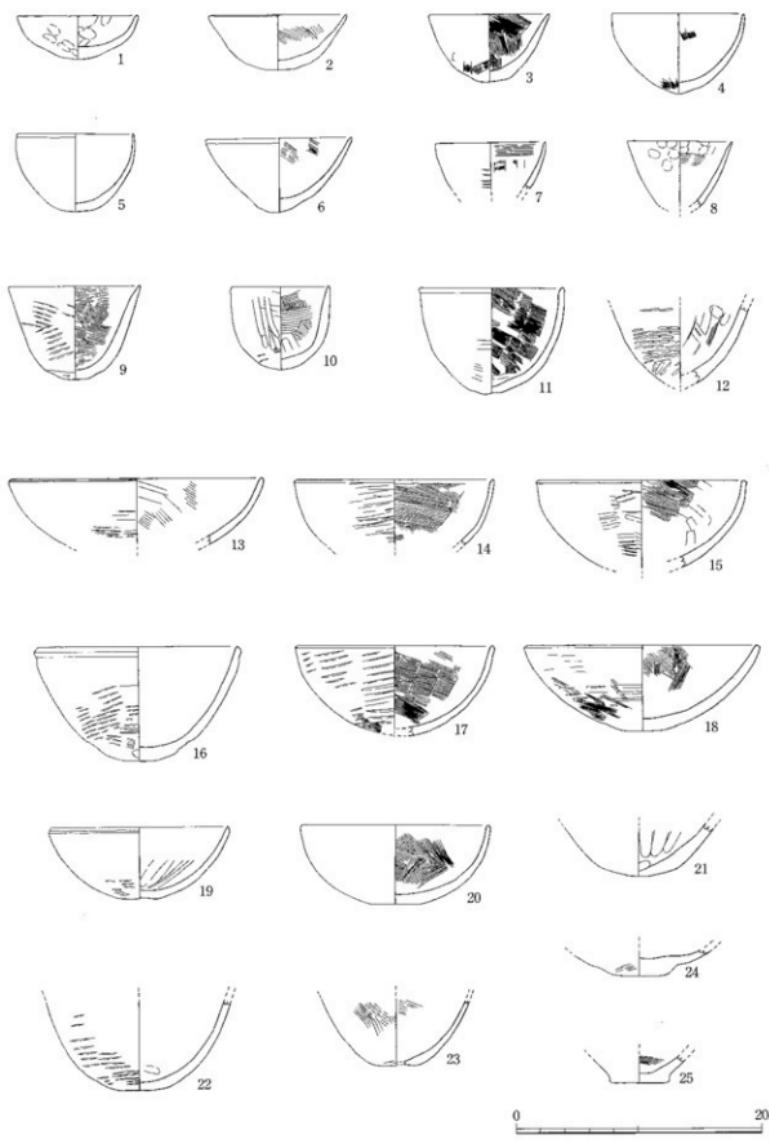


図12-1 92-A区-ST 4 出土遺物

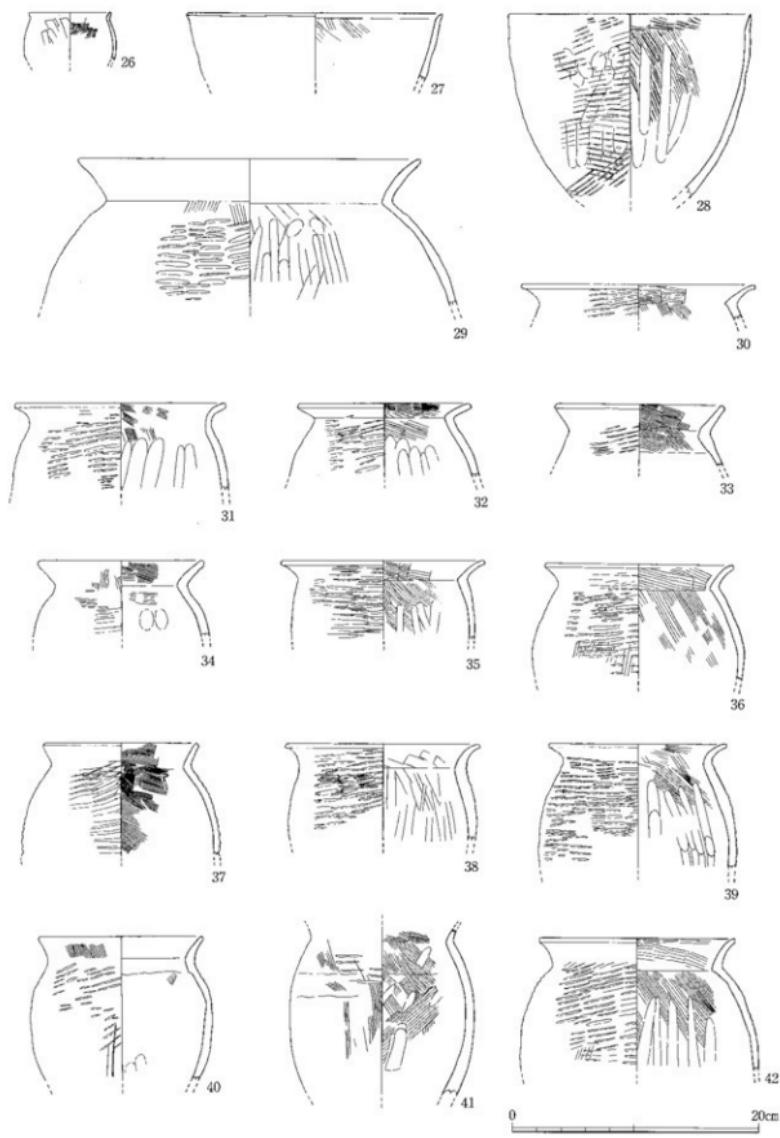


图12-2 92-A区-ST 4 出土遗物

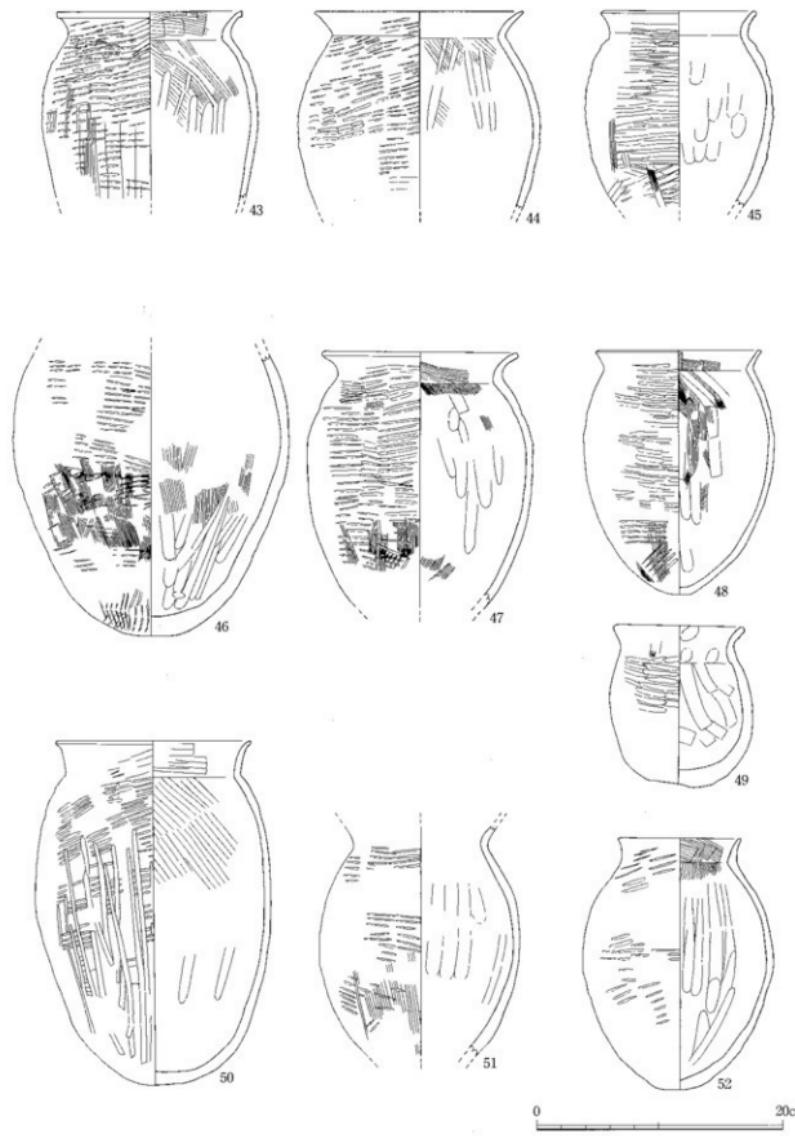


图12-3 92-A区-ST 4 出土遗物

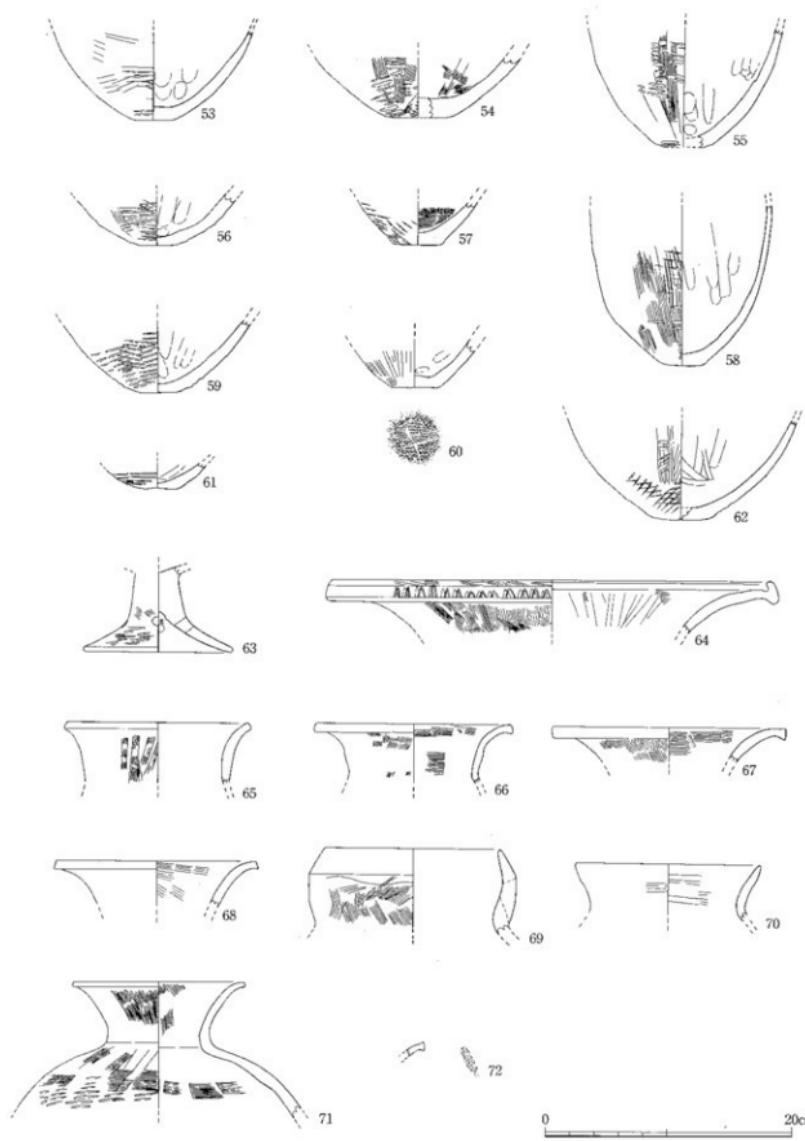


図12-4 92-A区-ST 4 出土遺物

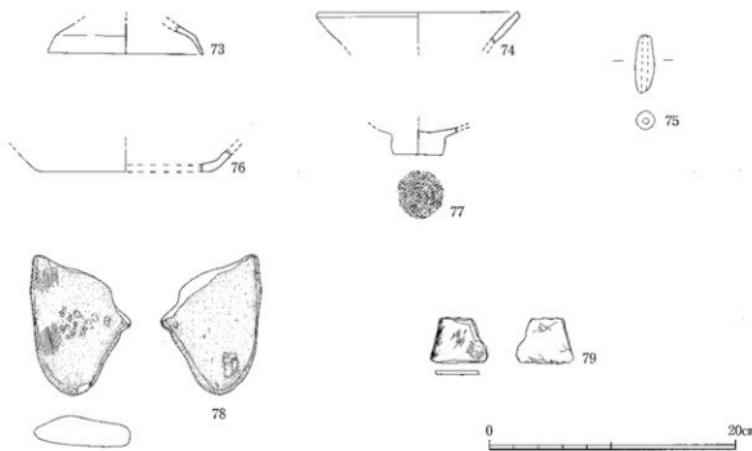


図12-5 92-A区-ST 4 出土遺物

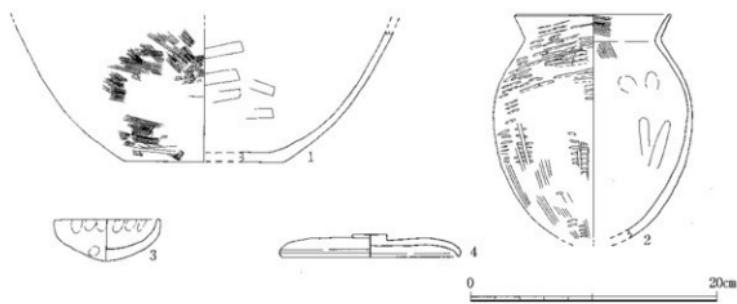


図14-1 92-A区-ST 5 出土遺物

堅穴住居跡6（A区ST-6）（図15）

A区の東側中央部のやや東寄りに位置する。隅丸方形を呈する。南北約5.7m、東西は西側部分で溝跡により切り合い関係となっているので正確には言えないが約3.6mで、遺構検出面からの深さは北側で2.9cm、南側で2.8cm、東側で2.5cm、西側で2.3cmを測りほぼ水平である。炉跡は不明確である。埋土は黒色土層である。

出土遺物（図16）

住居跡内からは少量の遺物ではあるが鉢、甕、壺、高坏、石器、鐵鎌が出土している。鉢（1,2,3,4）は内面に刷毛目調整、外面に叩き目、甕（6）も同じく内面に刷毛目調整と指圧ナデ、外面には叩き目がある。壺（7）は口縁部をラッパ状に開く。石器（10）は砥石である。鐵鎌（11）は鐵身體である。

出土遺物（A区包含層遺物）（17）

包含層より須恵器の蓋（1）、綠釉陶器（2）などが出土している。

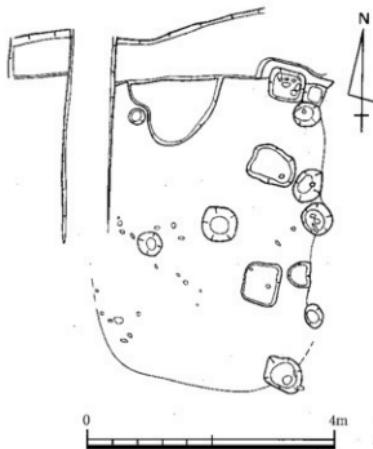


図15 A区-ST-6遺構平面図

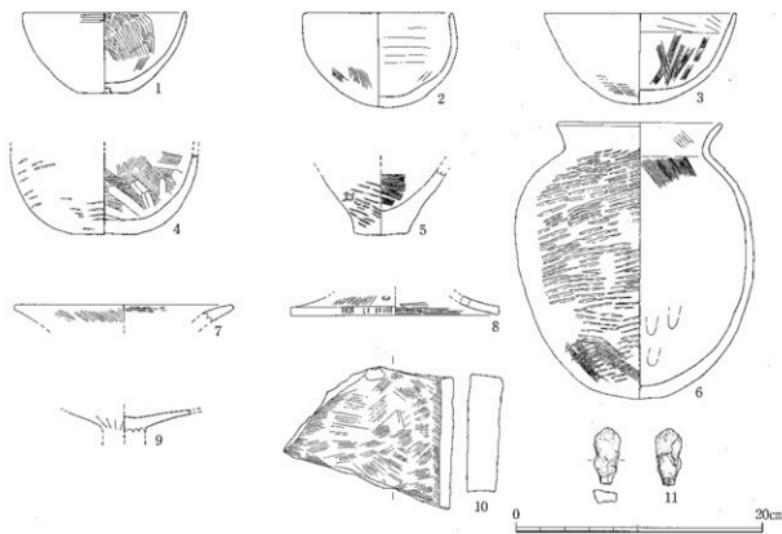


図16-1 92-A区-ST 6出土遺物



図17-1 92-A区-II層出土遺物

B区

堅穴住居跡1 (B区ST-1) (図18)

B区調査区の南側東部に位置する。住居跡は不定形な隅丸方形の形を呈し、西に隣接してB区ST-2がある。南北4.1m、東西約5mで検出面からの深さは住居跡北側で21cm、南側で14cm、西側18cm、東側で16cmではほぼ水平である。住居跡内の遺構はピットがある。炉跡は住居跡中央部よりやや南側に寄った位置にある。住居跡北側と西側には幅60cm程度の周溝がある。住居跡内は単一の黒色土層で、埋土には炭を含む。

出土遺物 (図19)

住居跡からの遺物では鉢(1, 2, 3, 4, 5)、甕(6, 7, 8, 9, 10)、砥石(11)が出土している。鉢は内面に刷毛目がみられ、外面には僅かに叩き目がみられる。甕は口縁部内面に綫又は横の刷毛目が見られ、胴部内面は指圧によるナデ調整を施し、外面は叩き目、刷毛目がみられる。

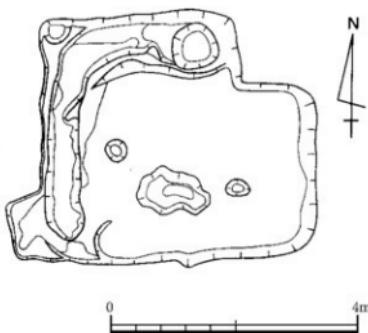


図18 B区-ST-1 遺構平面図

堅穴住居跡2 (B区ST-2) (図20)

B区調査区の南側中央部に位置する。住居跡は隅丸方形の形を呈し、東に隣接してB区ST-1がある。南北5.5m、東西約5.5mで検出面からの深さは住居跡北側で24cm、南側で20cm、西側23cm、東側で19cmではほぼ水平である。住居跡内の遺構はピットがある。炉跡は住居跡中央部よりやや南側に寄った位置にある。住居跡内の壁には幅約1.5m程度のベット状遺構が全周する。北住居跡内は単一の黒色上層で、埋土には炭を含む。

出土遺物 (図21)

住居跡からの遺物では甕(1)、鉢(4, 5)、甕(6, 7)、壺(7)が出土している。鉢は内面に刷毛目がみられ、甕は口縁部内面に綫又は横の刷毛目が見られ、胴部内面は指圧によるナデ調整を施し、外面は叩き目、刷毛目がみられる。



図20 B区-ST-2 遺構平面図

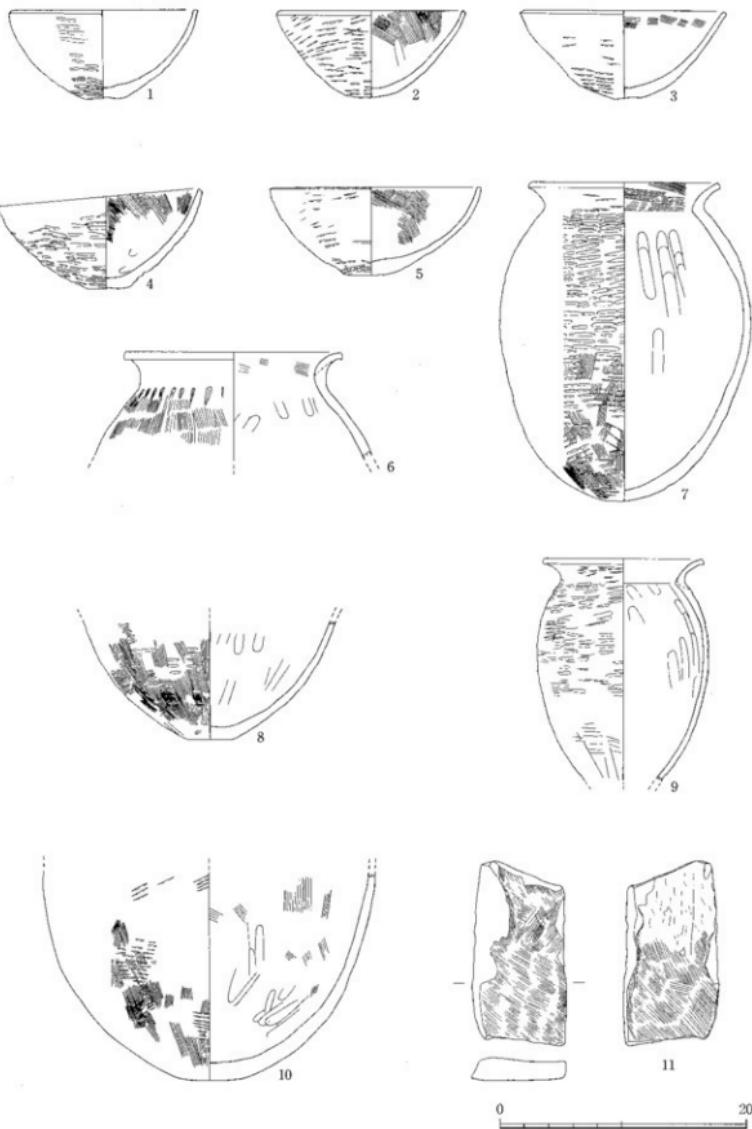


図19-1 92-B区-ST1出土遺物

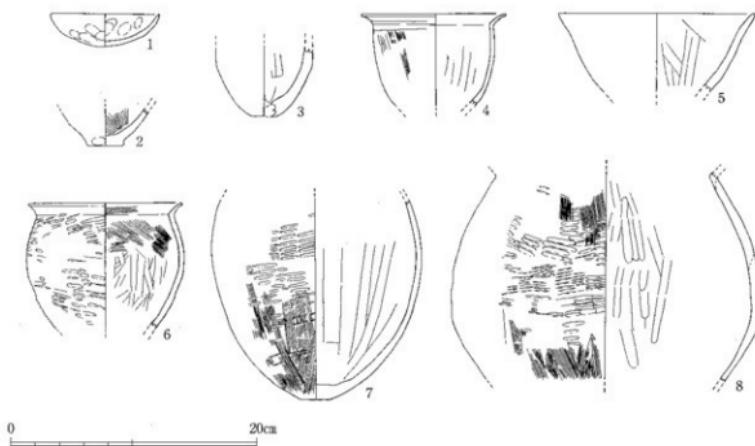


図21-1 92-B区-ST 2出土遺物

堅穴住居跡3（B区ST-3）（図22）

B区調査区の中央部西側に位置する。住居跡はやや長方形の形を呈し、東に隣接してB区ST-5がある。南北6m、東西約4.5mで検出面から約2.7m、南側で2.0cm、西側4.5cm、東側で3.4cmではほぼ水平である。住居跡内の遺構はピットがある。炉跡は不明。

出土遺物（図23）

住居跡からの遺物では鉢（1）、甕（5）などが出土している。鉢は内面にわずかに刷毛目がみられ、甕は口縁部内面に縱又は横の刷毛目が見られ、胴部内面は指圧によるナデ調整を施し、外面は叩き目、刷毛目がみられる。

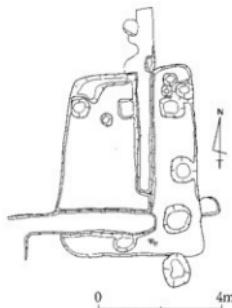


図22 B区-ST-3遺構平面図

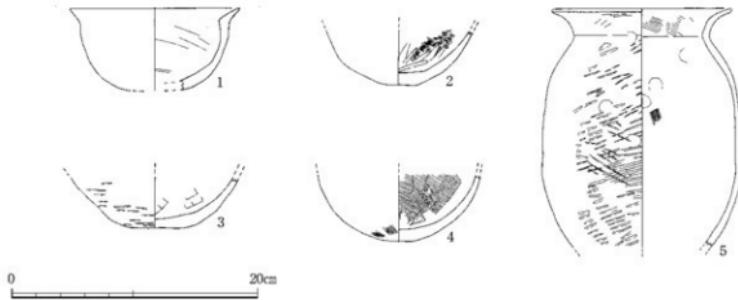


図23-1 92-B区-ST 3出土遺物

豊穴住居跡4（B区ST-4）（図24）

B区調査区の中央部東側に位置する。住居跡はやや長方形の形を呈し、西南に隣接してB区ST-5がある。南北3.5m、東西約6.5mで検出面からの深さは住居跡北側で1.2cm、南側で1.4cm、西側2.1cm、東側で1.8cmでほぼ水平である。住居跡内の遺構はピットは不明確である。炉跡は確認できなかった。

出土遺物は図示できる遺物は無い。

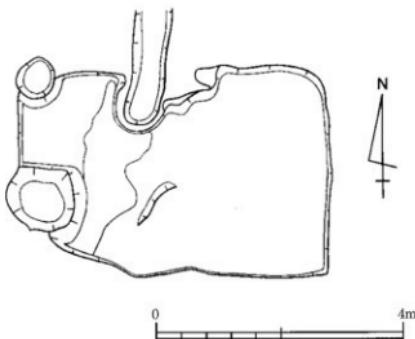


図24 B区-ST-4 遺構平面図

豊穴住居跡5（B区ST-5）（図25）

B区調査区の中央部に位置する。住居跡はやや長方形の形を呈し、北東に隣接してB区ST-4がある。南北5.5m、東西約4mで検出面からの深さは住居跡北側で3.5cm、南側で1.8cm、西側4.0cm、東側で2.9cmでほぼ水平である。住居跡内の遺構はピットがある。炉跡は不明。

出土遺物（図26）

住居跡からは甕（1）、須恵器（杯）などが出土している。甕は胴部内面は刷毛目調整を施し、外面は叩き目がみられる。

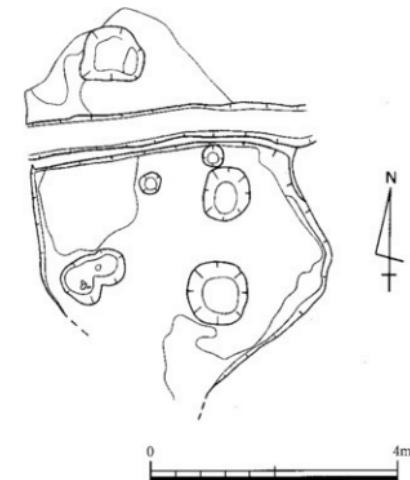


図25 B区-ST-5 遺構平面図

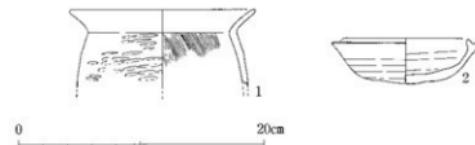


図26-1 92-B区-ST5 出土遺物

豎穴住居跡 6 (B区 ST - 6) (図27)

B区調査区の北側中央部に位置する。住居跡はやや不正形の長方形を呈し、東に隣接してB区 ST - 7がある。南北7.5m、東西約5.8mで検出面からの深さは住居跡北側で6.6cm、南側で13.5cm、西側7.8cm、東側で8.4cmでほぼ水平である。住居跡内の遺構はピットがある。炉跡は不明。

出土遺物 (図23)

住居跡の遺物は鉢 (1,3)、甕 (2)などが出土している。鉢は内面に刷毛目、外面にわずかに叩き目がみられ、甕は口縁部内面に縦又は横の刷毛目が見られ、外面は叩き目、刷毛目がみられる。

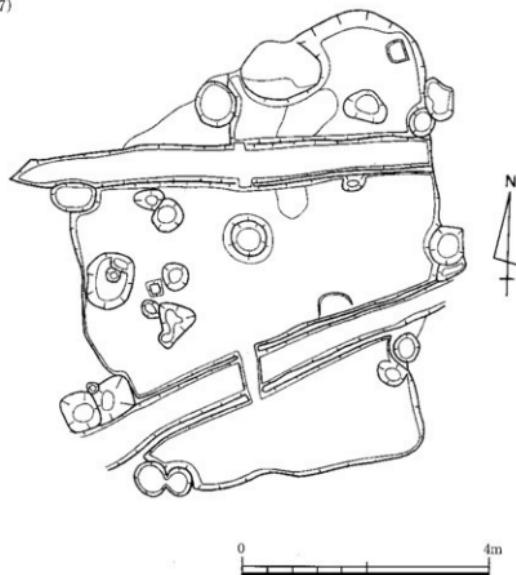


図27 B区-ST-6 遺構平面図

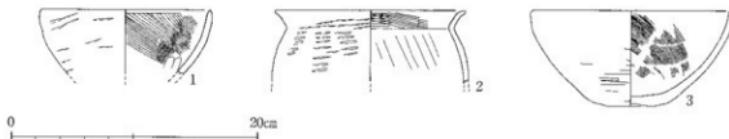


図28-1 92-B区-ST 6 出土遺物

豎穴住居跡 7 (B区 ST - 7) (A区 ST - 3 図10)

B区調査区の北側の東側に位置する。

出土遺物 (図29)

住居跡の遺物は鉢 (1,3)、甕 (2)などが出土している。鉢は内面に刷毛目、外面にわずかに叩き目がみられ、甕は口縁部内面に縦又は横の刷毛目が見られ、外面は叩き目、刷毛目がみられる。

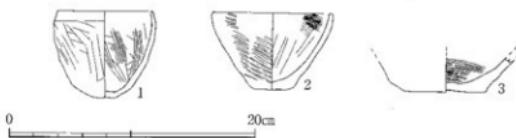


図29-1 92-B区-ST 7 出土遺物

豊穴住居跡 8 (B区 ST - 8) (図30)

B区調査区の北側の北西部に位置する。住居跡はやや不正形の長方形を呈している。東側は平削により不明。南北6m以上、東西は不明である。検出面からの深さは住居跡北側で2.8cm、西側5.6cmではほぼ水平である。住居跡内のピットは不明ある。一部に炉跡と思われる薄い焼土が確認されている。

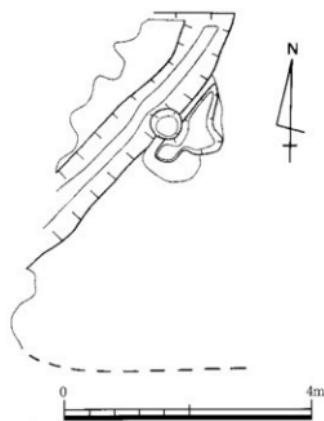


図30 B区-ST-8 造構平面図

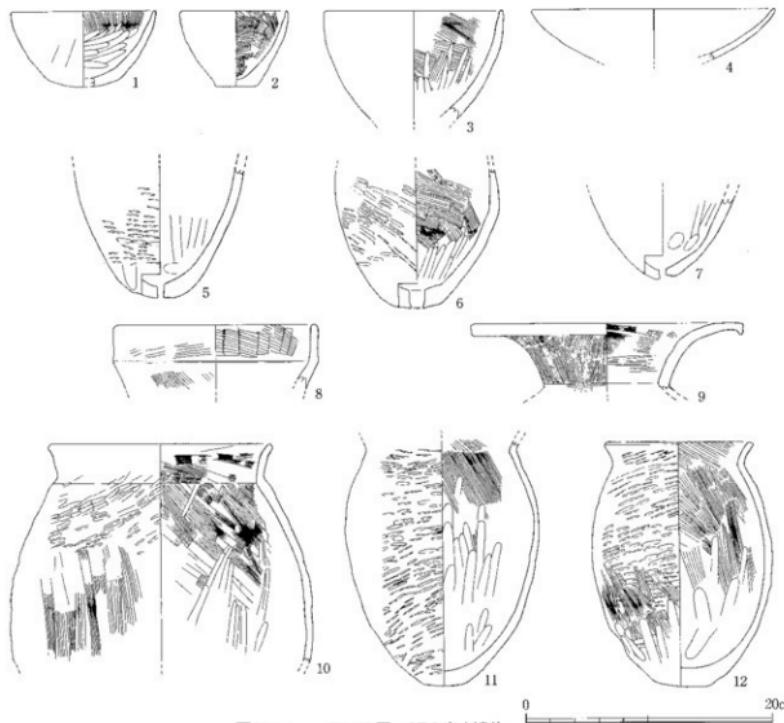


図31-1 92-B区-ST 9 出土遺物

ピット・溝跡・遺物包含層（Ⅱ層）（B区 図54 附属全体図）

出土遺物（図32）

弥生土器では鉢、甕、壺などが出土している。鉢（5）は内面に刷毛目と指圧ナデ、外面に叩き目がみらる。甕（14）は口縁部内面に継又は横の刷毛目が見られ、外面は叩き目、刷毛目がみられる。また壺（16）は胴部内面に指圧調整がみられる。（15）は内面に指圧による調整がみられる。古代の造物では土師器（4）ではロクロによる形成の後、底部は回転窓けずりとなっている。須恵器（11.12）の蓋はロクロにより形成され、ボタン状のつまみがつく。石鍋（15）は滑石性で滑らかな仕上がりとなっている。

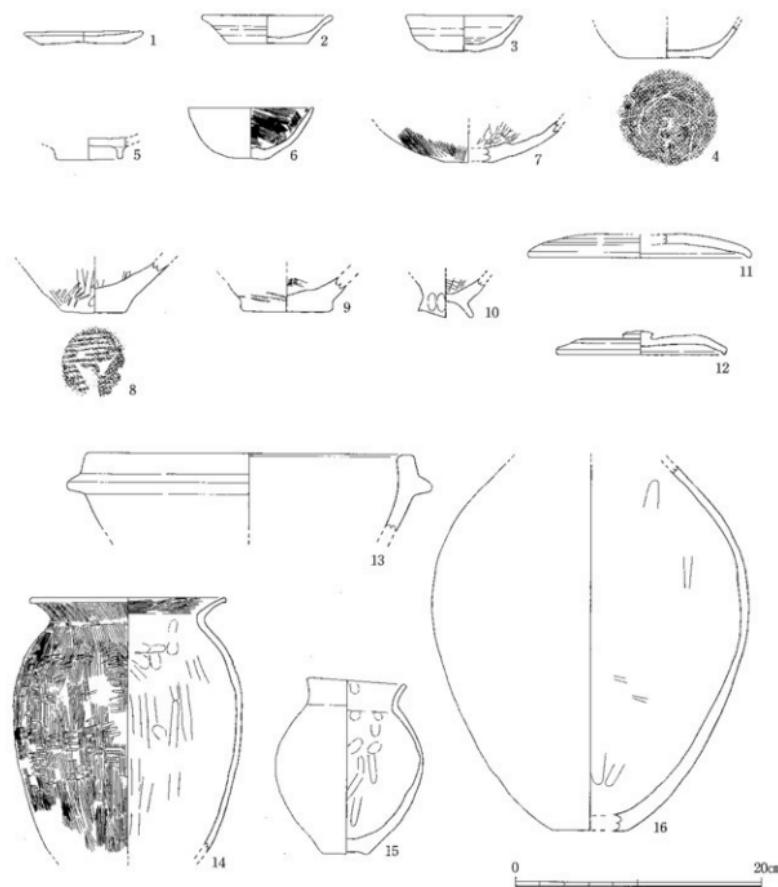


図32-1 92-B区-P・SD・II層出土遺物

C区

豎穴住居跡1 (C区ST-1) (C区 図33)

C区調査区の西側中央部に位置する。住居跡は隅丸方形の形を呈し、南北3.8m、東西約4.5mで検出面からの深さは住居跡北側で40cm、南側で38cm、西側25cm、東側で27cmでほぼ水平である。住居跡内の遺構はピットがある。特に炉跡は確認できない。住居跡内は単一の黒色土層で、埋土層からは弥生土器が出土した。

出土遺物 (図34)

住居跡からの遺物では楕(1.2)、鉢(3.4)、甕(5)、壺(7.10.13)、高杯(22.23)、土製支脚(25.26.27.28)が出土している。鉢は内面に刷毛目がみられ、外面上には僅かに叩き目がみられる。甕は口縁部内面に縱又は横の刷毛目が見られ、腹部内面は指圧によるナデ調整を施し、外面は叩き目、刷毛目がみられる。高杯は脚部の破片で小孔がある。土製支脚は筒型状をなし、全面に指圧調整と叩き目が施されている。

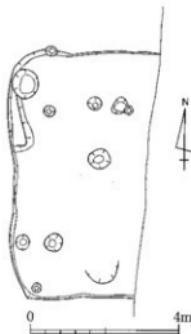


図33 C区-ST-1 遺構平面図

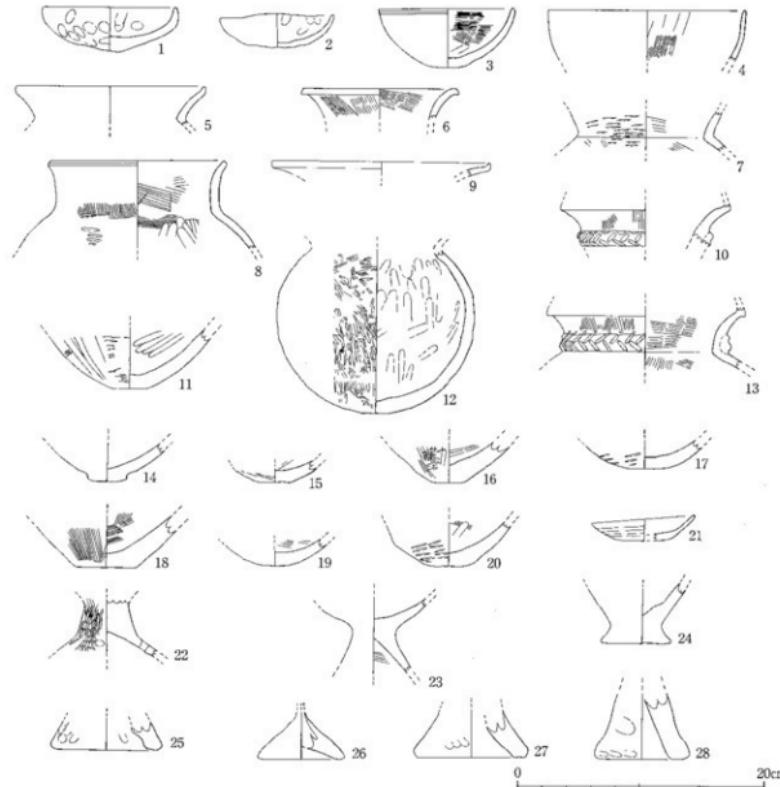


図34-1 92-C区-ST1出土遺物

土坑（C区SK-1, 2）（C区 図54 附属全体図）

出土遺物（図35）

弥生土器では甕（1）、壺（2）が出土している。甕、壺ともに内面に刷毛目、甕は外面叩き目、刷毛目がみられる。また壺は副部内面に指圧調整がみられる。古代の遺物では土師器（4）ではロクロによる形成の後、底部は回転窓削りとなっている。須恵器（4.5）は受身の杯でロクロにより形成され、底部は回転窓削りである。

遺物包含層（II層）（C区）

出土遺物（図36）

包含層遺物は弥生土器、土製支脚、須恵器、土師器、土師質土器、瓦質鍋、白磁が出土している。（1）は土師質土器の小皿である。（2.3）は須恵器の杯でロクロによる形成、底部は欠損している。土師質土器は精錬された胎土が使われ、ロクロによる形成、底部は回転糸切り底である。弥生土器は甕、壺で内面は指圧による調整、外面は刷毛目による調整がなされている。器台の土製支脚は内外面ともに指圧による調整が施されている。

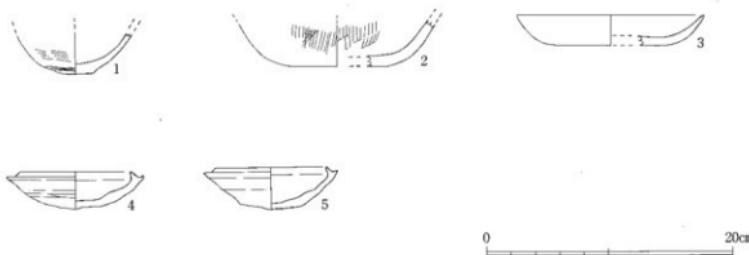


図35-1 92-C区-SK1・2出土遺物

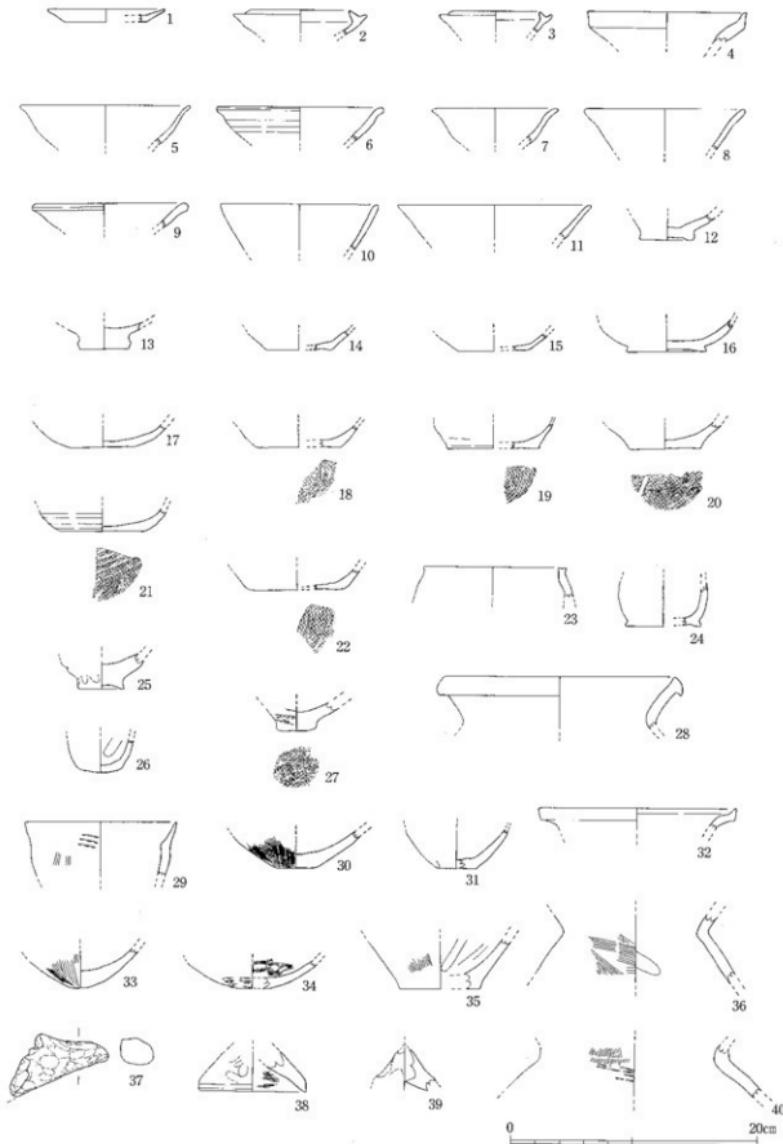


図36-1 92-C区-II層出土遺物

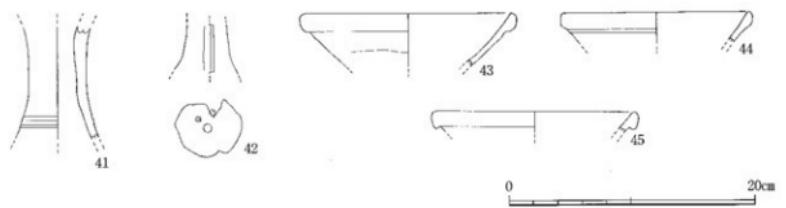


図36-2 92-C区-Ⅱ層出土遺物

平成5年度の調査（1993年度）

平成5年度の調査は、平成4年度に調査を実施したカリヤガノ地区の北側部分の調査を実施した。当地区は舌状の形をした微高地でありこの微高地を境として東側と南側は新改川（国分川）により形成された低地地帯の地形をなしている。

調査区は旧農地の圭塙で区画し、東側よりA区、B区の2地区に分けた。A区からは竪穴住居跡5棟と溝跡、ピット、土坑等、B区は竪穴住居跡2棟と溝跡、ピット、土坑等が検出された。以下各遺構とその遺物の概要を述べることにする。なお、遺物に関しては遺物観察表を参照されたい。

1. 基本層序

当地区の全調査区（1992年度、1993年度）を通してⅠ層は耕作土（床土を含む）、Ⅱ層は無く床土を剥ぐと遺構が検出でき、床土の直下は遺構面に達する。微高地の周辺部の低地に接する付近ではⅠ層の次に黒色土層（クロボク）のⅢ層が検出できる。Ⅲ層には弥生時代から中世の遺物が混在しており遺物包含層である。Ⅲ層下は遺構面に達するが、遺構の掘り込み地層であるⅣ層は全調査区の半分以上が砂礫と粘質土層で一部に黒色土層が見られる。

2. 遺構と遺物

A区

竪穴住居跡1（A区ST-1）（図37）

A区調査区の南側中央部に位置する。住居跡は隅丸方形の形を呈し、南北4.50m、東西約5.0mで検出面からの深さは住居跡北側で29cm、南側で33cm、西側34cm、東側で27cmでほぼ水平である。住居跡内の遺構にはピットがある。住居跡中央には炉跡がある。住居跡内は單一の黒色土層で、埋土層からは炭を含む。

出土遺物（図38）

住居跡からの遺物では椀（1）、鉢（2）、高杯（4）、土製支脚（3）が出土している。椀は内外面ともに指圧によるナデ調整がされている。鉢は内面に刷毛目がみられ、外面には僅かに叩き目がみられる。高杯の杯部は調整が良くなされた脚部に小孔がある。土製支脚は筒型状をなし指圧調整と叩き目が施されている。5は粗製石包丁で両端が刃部となっている。

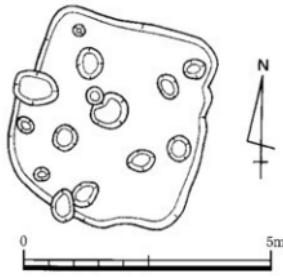


図37 A区-ST-1 遺構平面図

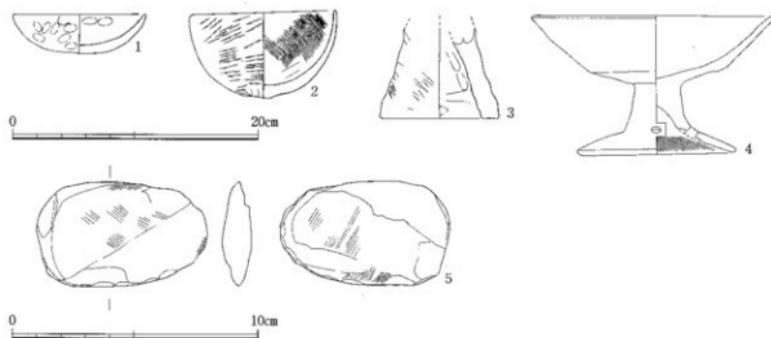


図38-1 93-A区-ST1 出土遺物

豊穴住居跡 2 (A区 ST - 2) (図39)

A区調査区の南側西部に位置する。住居跡は隅丸方形の形を呈し、南北5.0m、東西約5.20mで検出面からの深さは住居跡北側で18cm、南側で21cm、西側17cm、東側で15cmではほぼ水平である。住居跡内の遺構にはピットがある。住居跡北西部の隅には30cmの周溝がある。住居跡中央には炉跡がある。住居跡内は単一の黒色土層である。

出土遺物 (図40)

住居跡からの遺物では椀(1)、鉢(2)、壺(3.4)が出土している。椀は内外面ともに指圧によるナデ調整がされている。鉢は内面に刷毛目がみられ、外面には叩き目がみられる。壺も内外面は刷毛目調整がなされている。

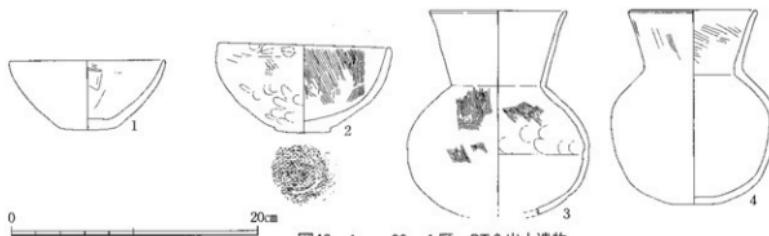


図40-1 93-A区-ST 2 出土遺物

豊穴住居跡 3 (A区 ST - 3) (図41)

A区調査区の中央部に位置する。住居跡は隅丸方形の形を呈し、南北5.0m、東西約7.0mで検出面からの深さは住居跡北側で15cm、南側で12cm、西側13cm、東側で10cmではほぼ水平である。住居跡内の遺構にはピットがあるが近世の土坑により搅乱されている。住居跡北西部の隅には30cmの周溝がある。住居跡中央には炉跡がある。住居跡内は単一の黒色土層である。

出土遺物 (図42)

住居跡からの遺物では椀(1)、壺(8.9)、土製支脚(4.5.6)が出土している。椀は内外面ともに指圧によるナデ調整がされている。壺は内面に刷毛目がみられ、外面には叩き目がみられる。土製支脚は内外面は刷毛目調整と叩き目による調整がなされている。

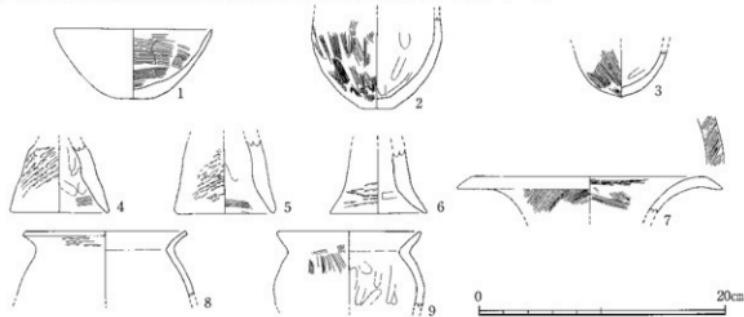


図42-1 93-A区-ST 3 出土遺物

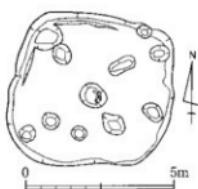


図39 A区-ST-2 遺構平面図

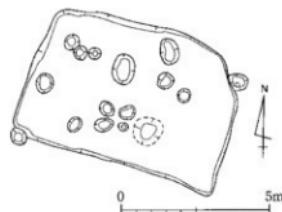


図41 A区-ST-3 遺構平面図

堅穴住居跡4（A区ST-4）（図43）

A区調査区の西部に位置する。住居跡は隅丸方形の形を呈し、南北5.5m、東西約5.4mで検出面からの深さは住居跡北側で36cm、南側で37cm、西側34cm、東側で29cmでほぼ水平である。住居跡内の遺構にはピットがある。住居跡中央より少し南よりには炉跡がある。住居跡内は単一の黒色土層である。埋土より炭と多量の弥生土器が出土している。

出土遺物（図44）

住居跡からの遺物では弥生土器（甕、楕、鉢、壺、高杯）土製支脚、鐵鎌、粗製石包丁、砥石が出土している。詳細は遺物観察表を参照されたい。

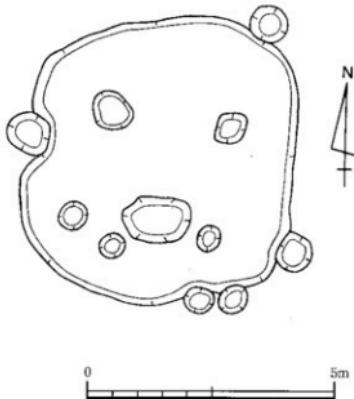


図43 A区-ST-4 遺構平面図

堅穴住居跡5（A区ST-5）（図45）

A区調査区の南側南東部に位置する。住居跡は隅丸方形の形を呈し、南北5.5m、東西約5mで検出面からの深さは住居跡北側で27cm、南側で24cm、西側23cm、東側で34cmでほぼ水平である。住居跡内の遺構にはピットがあるが近世の土坑により擾乱されている。住居跡北西部の溝には30cmの周溝がある。住居跡の炉跡不明である。住居跡内は単一の黒色土層である。埋土より多量の弥生土器と炭が出土している。

出土遺物（図46）

住居跡からの遺物で弥生土器（甕、楕、鉢、壺、高杯）土製支脚、鐵鎌、粗製石包丁、砥石、叩き石、土匱質土器などの遺物が出土している。詳細は遺物観察表を参照されたい。

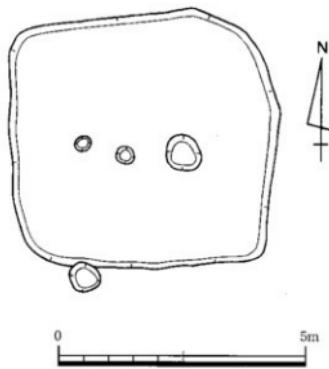


図45 A区-ST-5 遺構平面図

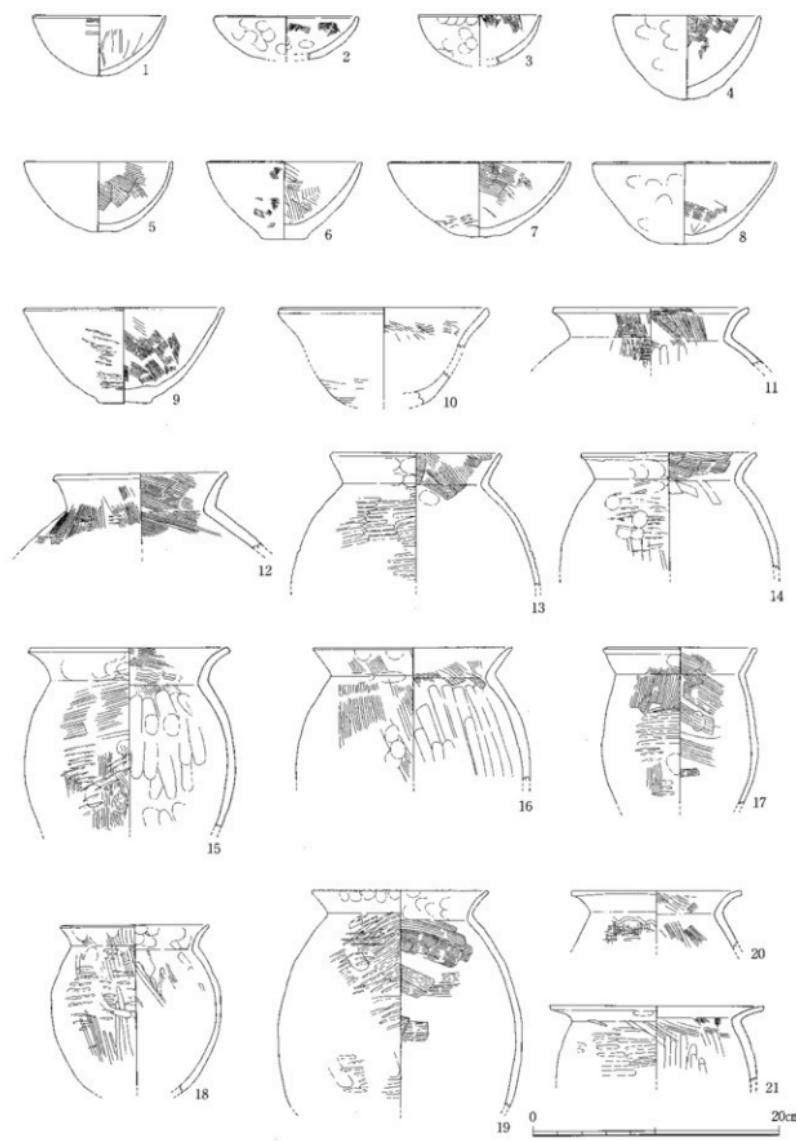


図44-1 93-A区-ST 4出土遺物

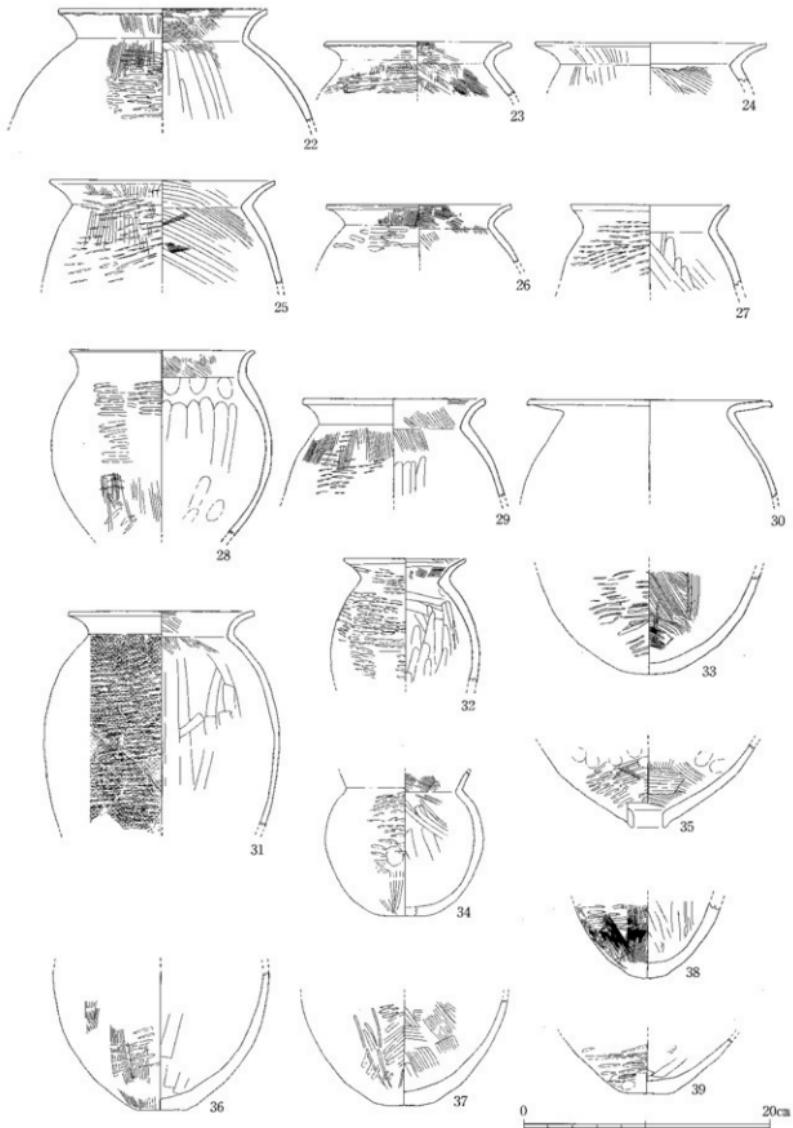
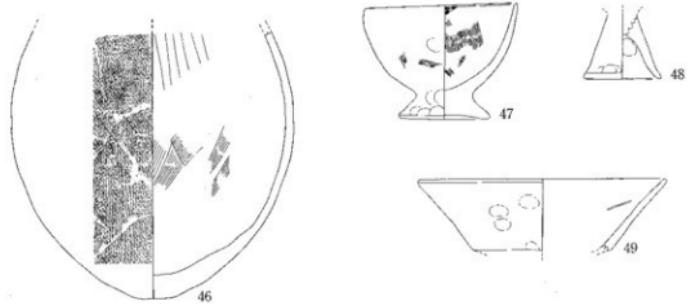
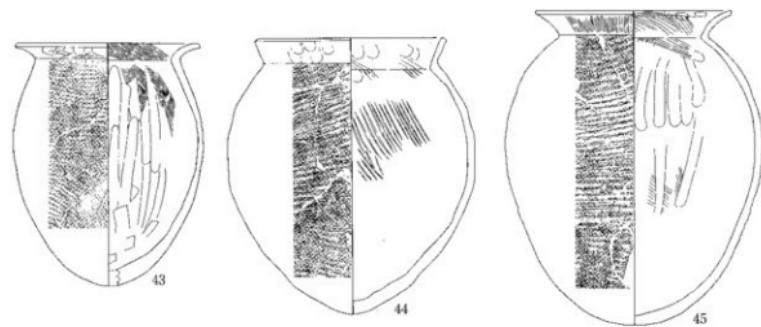
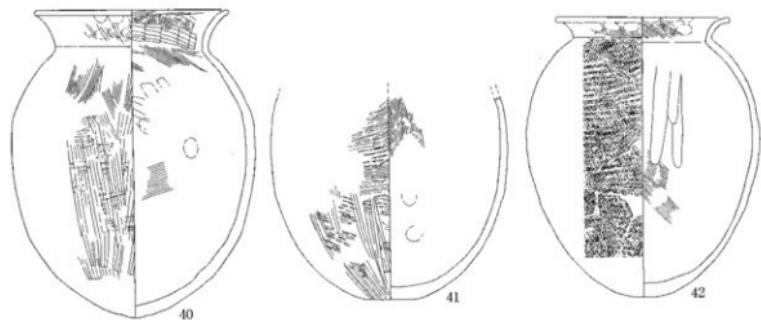


図44-2 93-A区-ST 4 出土遺物



0 20cm

図44-3 93-A区-ST4出土遺物

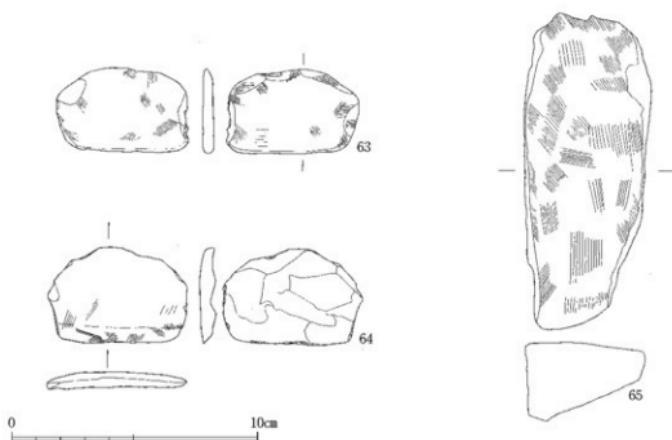
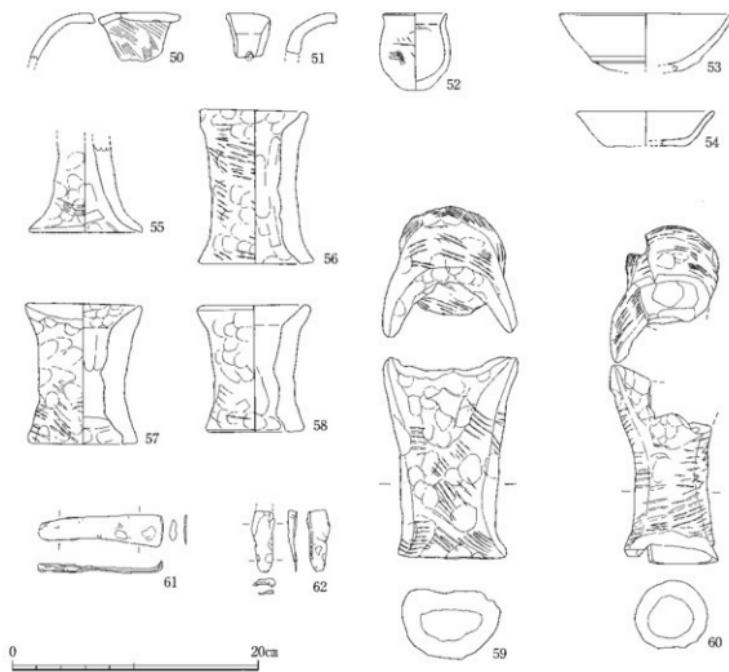


图44-4 93-A区-ST 4 出土遗物

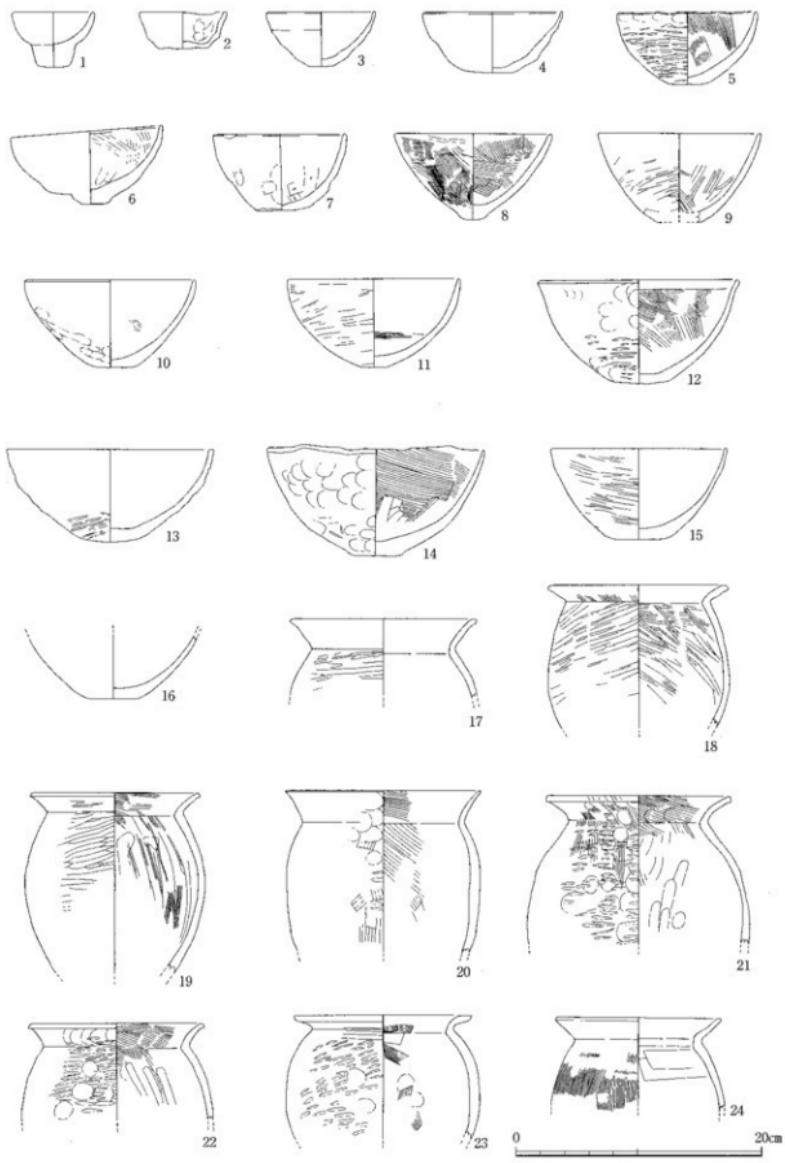


図46-1 93-A区-ST 5 出土遺物

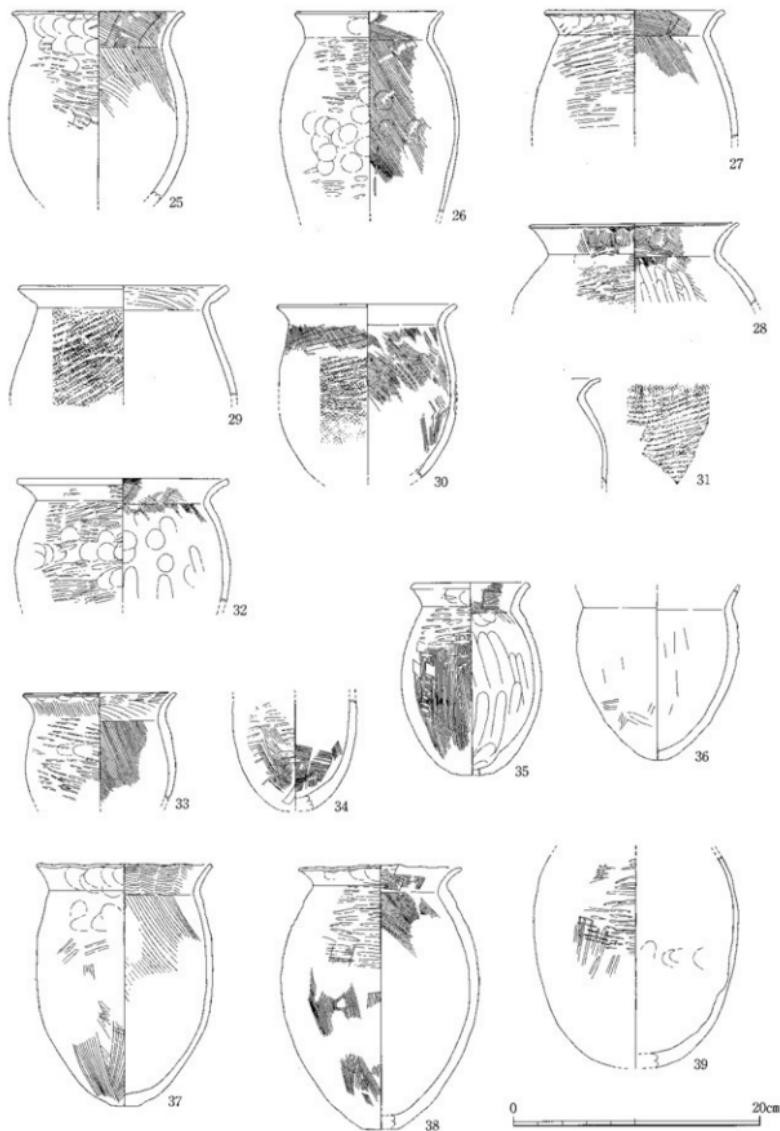


图46—2 93—A区—ST 5 出土遗物

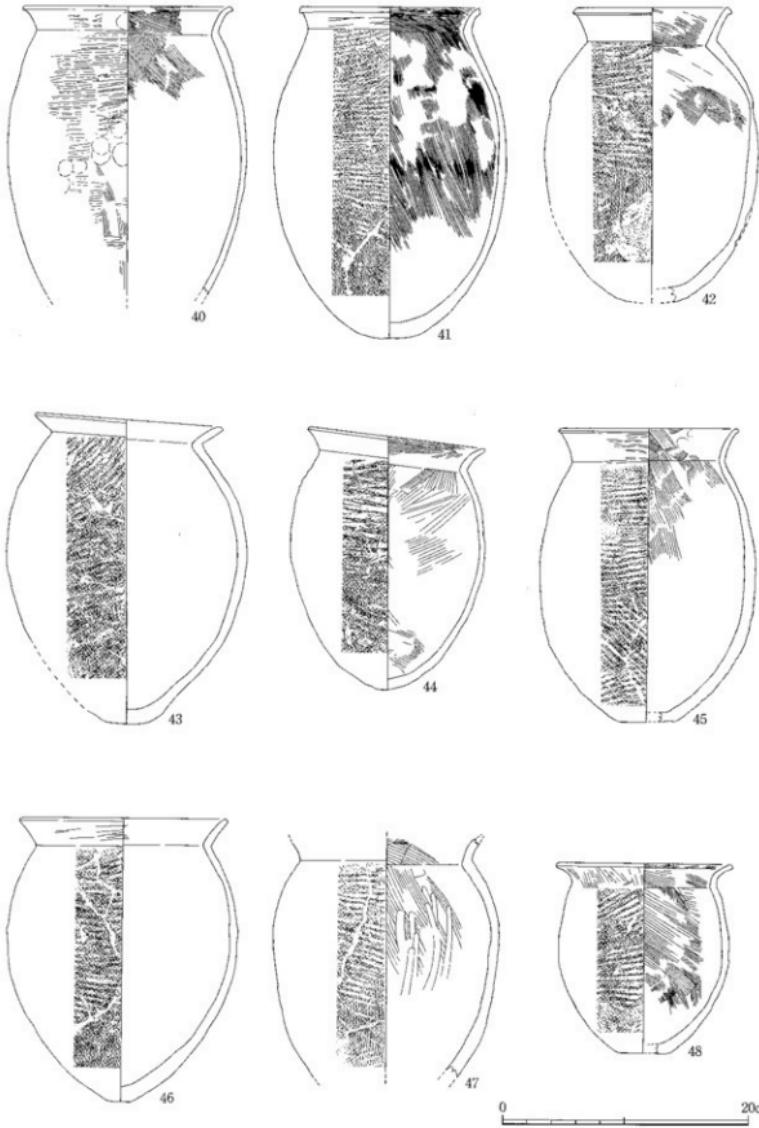


図46-3 93-A区-ST 5出土遺物

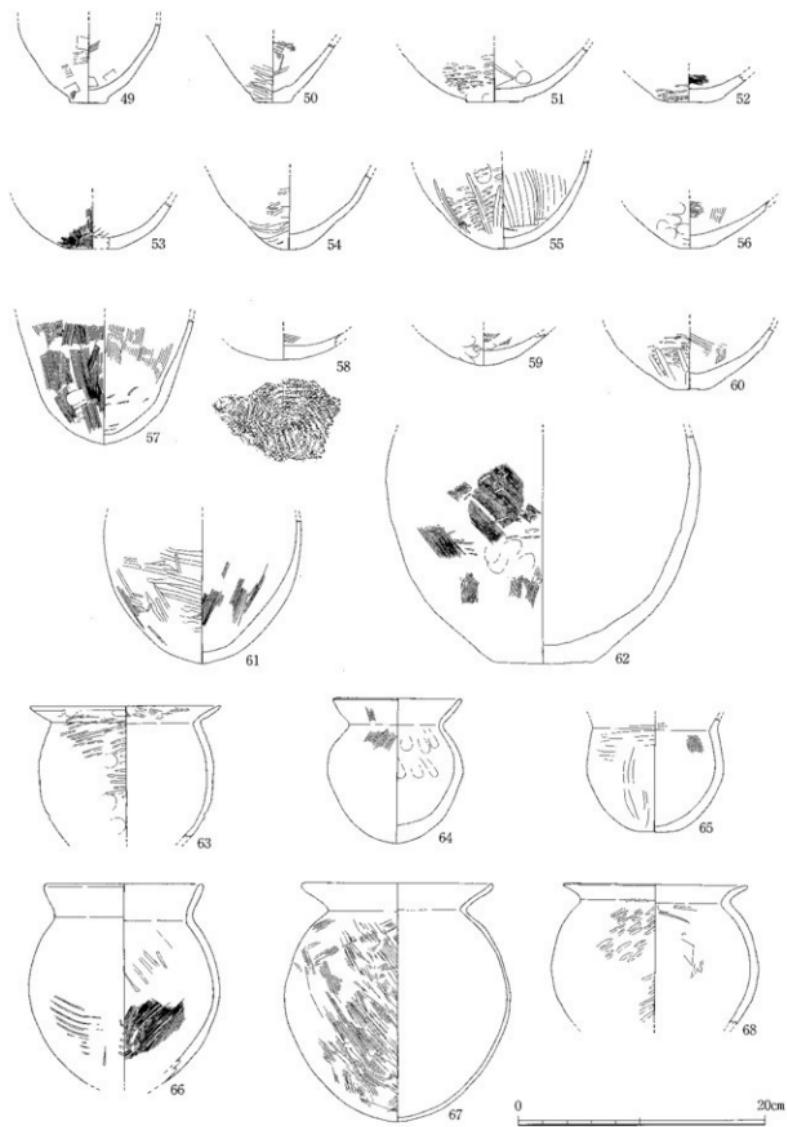


图46—4 93—A区—ST 5 出土遗物

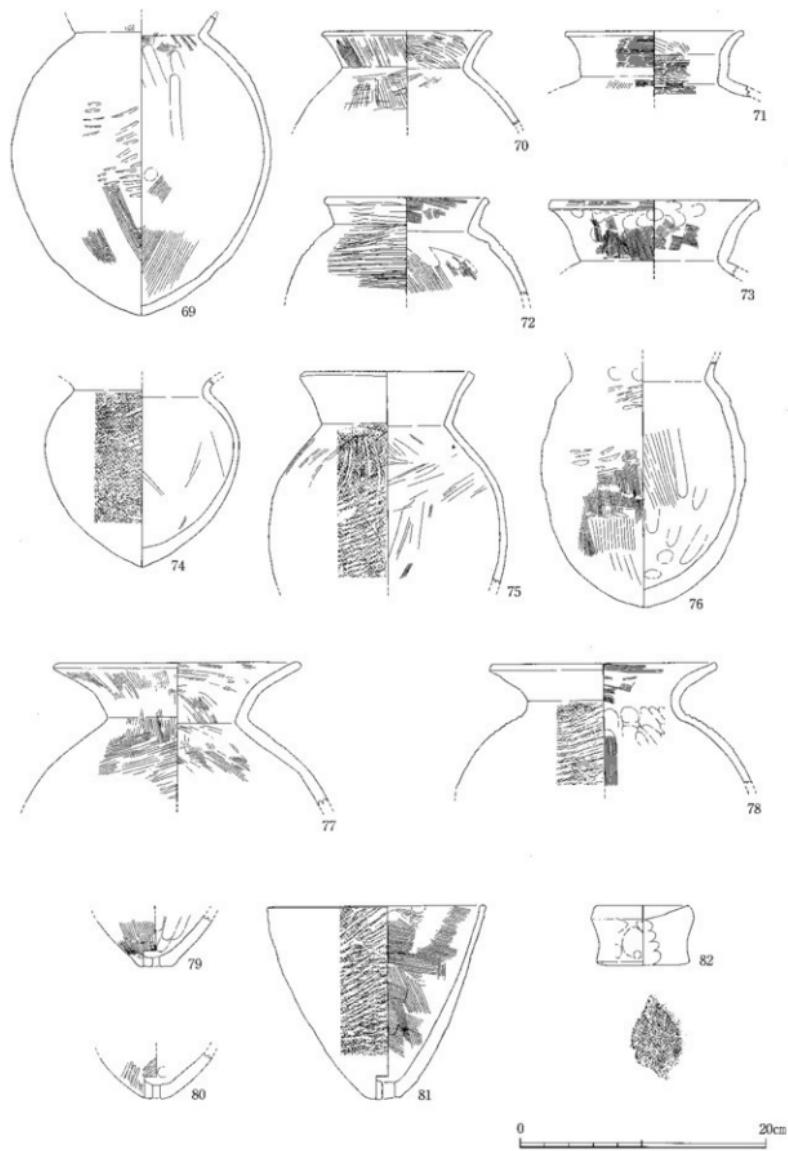


図46-5 93-A区-ST 5 出土遺物

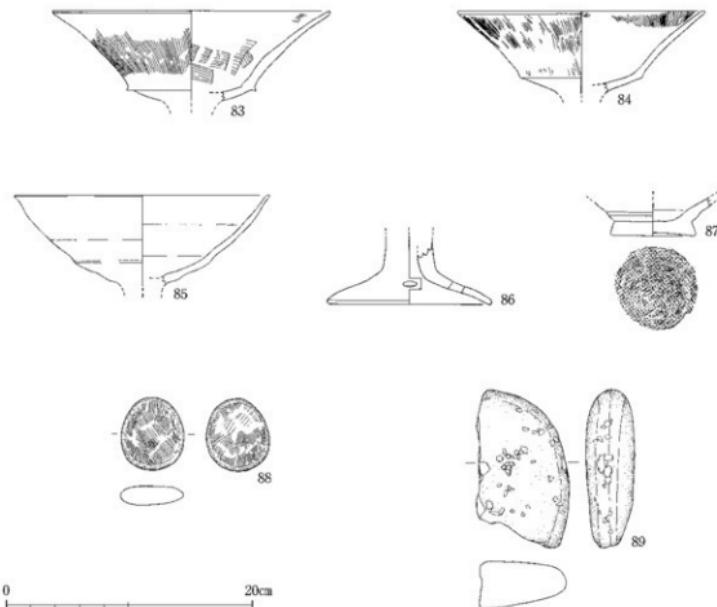


図46-6 93-A区-ST 5 出土遺物

土坑（A区SK-P）（A区 図54 附属全体図）

出土遺物（図47）

弥生土器について報告をする。

8は楕状の高杯である。内外面とも丁寧なヘラミガキが施されており、脚部に円形の孔を穿つ。9は小型鉢である。底部の形状は不明だが大きさから後期後半に属すると考えられる。

10は高杯である。裾の広い脚部を融資、外面に縱方向のハケ目がみられる。13は壺である。口縁部は「く」の字に屈曲しており、形状からヒビノキⅡ式土器後半に属すると考えられる。

14は壺である。頸部が長く、胴部は丸みを帯びている。底部は平らであり、弥生中期後半に属すると考えられる。15は壺である。タタキ出し口縁で外面に横方向の叩き目を施す。13と同様、ヒビノキⅡ式土器後半に属する。

16は壺の底部である。平底を呈し、胴部には縱方向のハケ調整が施される。ヒビノキⅠ式（後期後半）に属するか。

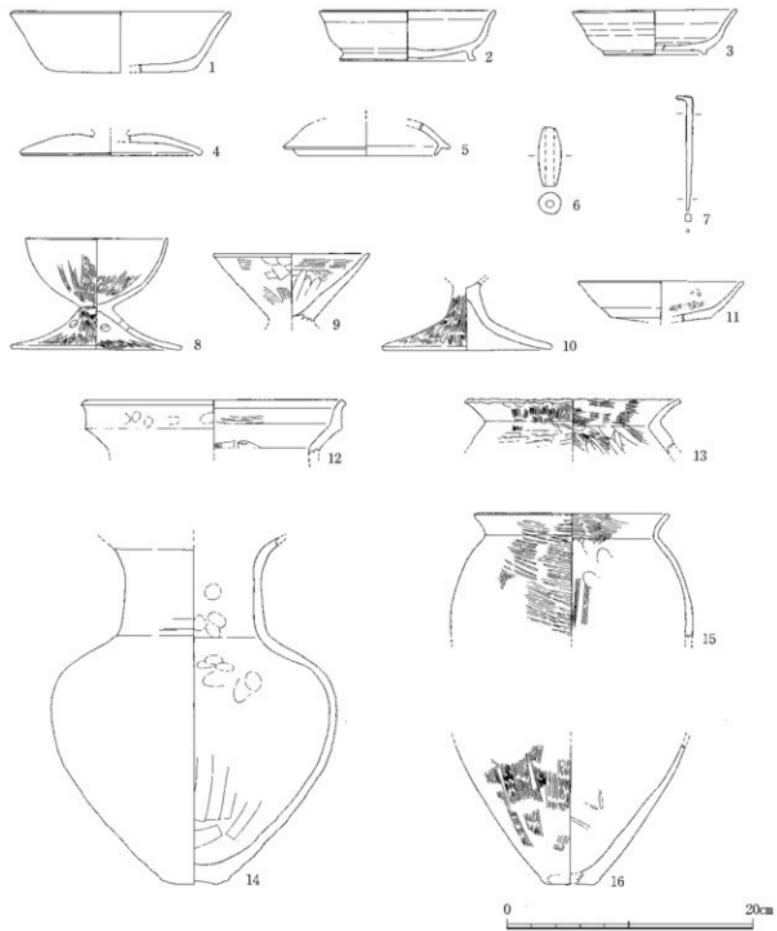


図47-1 93-A区-SK・P出土遺物

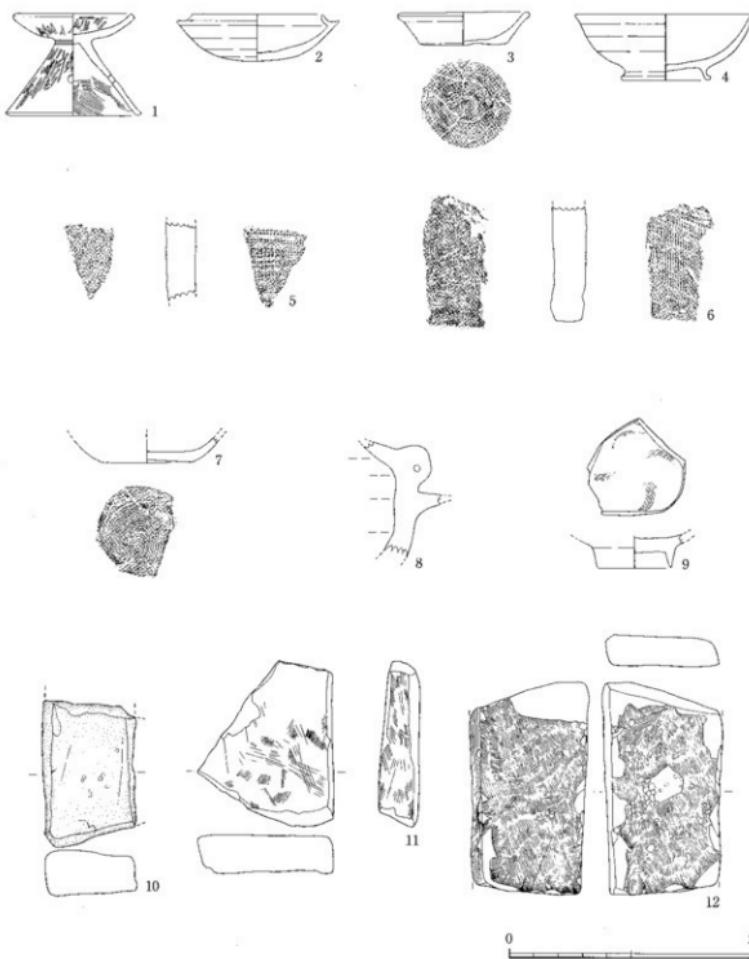


图48-1 93-A区-II层出土遗物

B区

竪穴住居跡1（B区ST-1）（図49）

B区調査区の南側東部に位置する。住居跡は円形の形を呈し、東に隣接してB区ST-2がある。南北7.5m、東西約7.5mで検出面からの深さは住居跡北側で15cm、南側で13cm、西側12cm、東側で13cmでほぼ水平である。住居跡内の遺構はピットがある。炉跡は住居跡中央部よりやや南側に寄った位置にある。住居跡内は単一の黒色土層で、埋土層からは炭を含む。

出土遺物（図50）

住居跡からの遺物では鉢、甕、粗製石包丁、鉄鎌、砾石が出土している。鉢は内面に刷毛目がみられ、外面には僅かに叩き目がみられる。甕は口縁部内面に縱又は横の刷毛目が見られ、腹部内面は指圧によるナデ調整を施し、外面は叩き目、刷毛目がみられる。

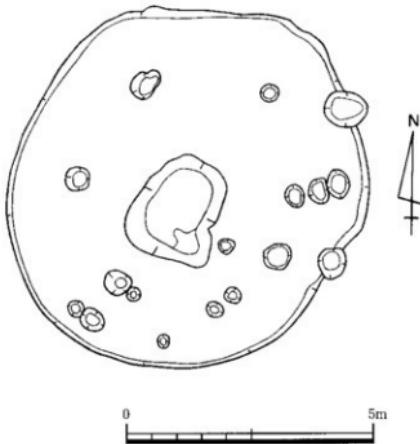


図49 B区-ST-1 遺構平面図

竪穴住居跡2（B区ST-2）（図51）

B区調査区の南側中央部に位置する。住居跡は隅丸長方形の形を呈し、西に隣接してB区ST-1がある。南北4.5m、東西約3.5mで検出面からの深さは住居跡北側で35cm、南側で40cm、西側31cm、東側で28cmでほぼ水平である。住居跡内の遺構はピットがある。炉跡は住居跡中央部よりやや南側に寄った位置にある。住居跡内は単一の黒色土層で、埋土層からは炭を含む。

出土遺物（図52）

住居跡からの遺物では甕、鉢、甕、壺、高杯、土製支脚、鉄鎌が出土している。鉢は内面に刷毛目がみられ、甕は口縁部内面に縱又は横の刷毛目が見られ、腹部内面は指圧によるナデ調整を施し、外面は叩き目、刷毛目がみられる。

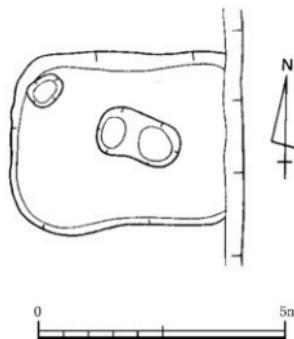


図51 B区-ST-2 遺構平面図

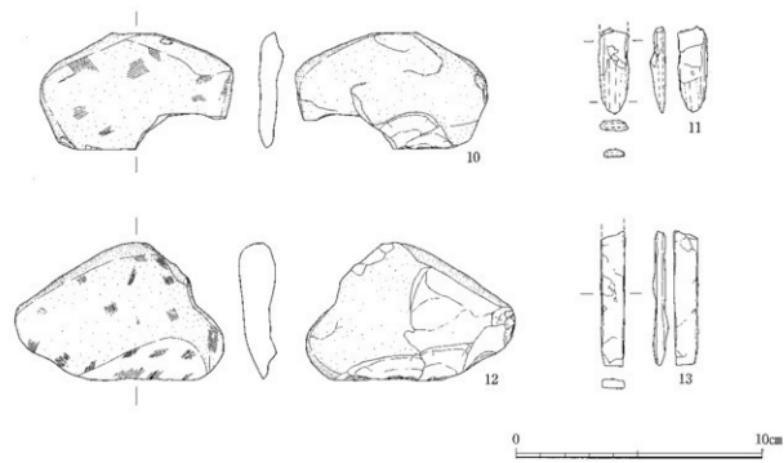
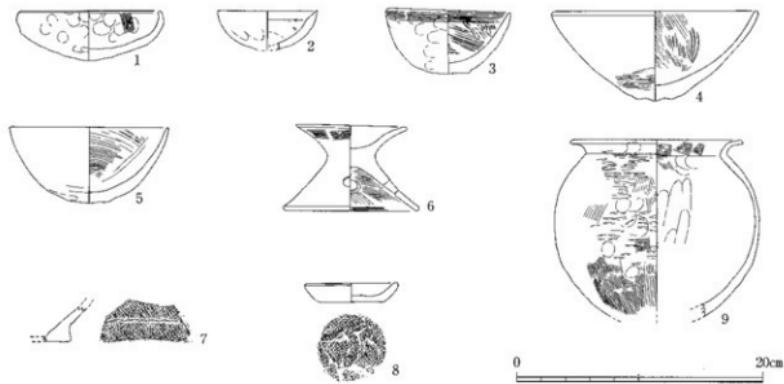


図50-1 93-B区-ST1出土遺物

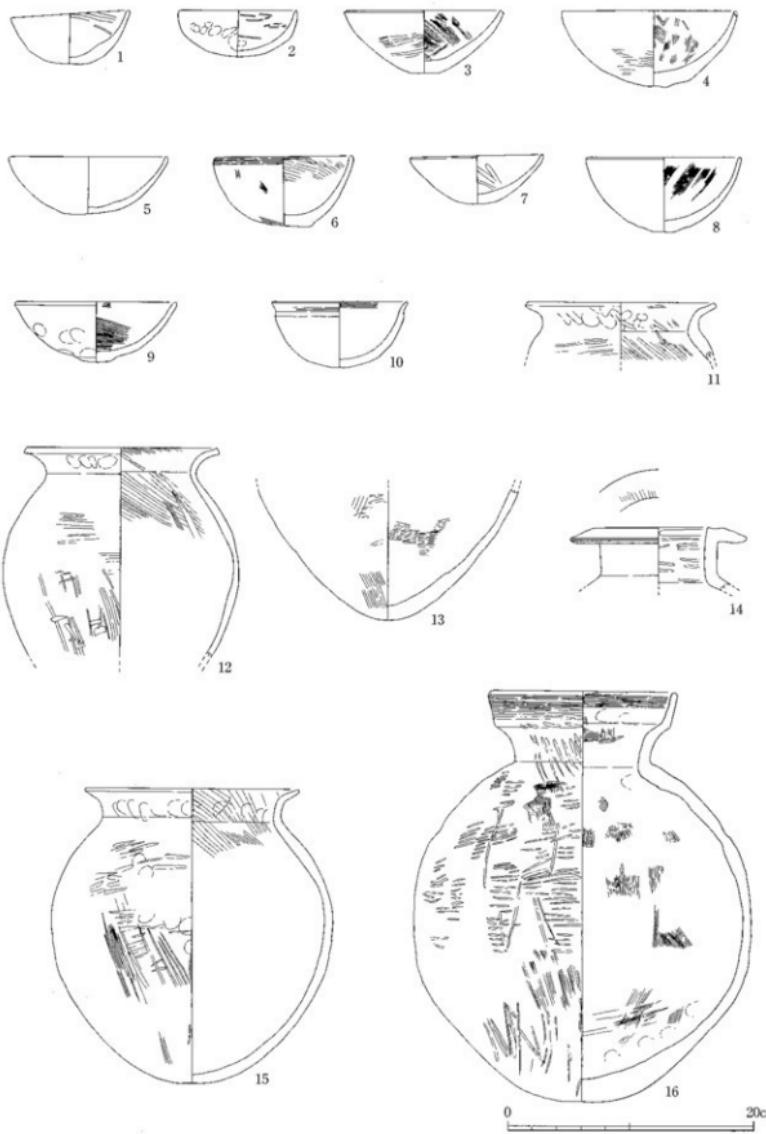


図52-1 93-B区-ST 2出土遺物

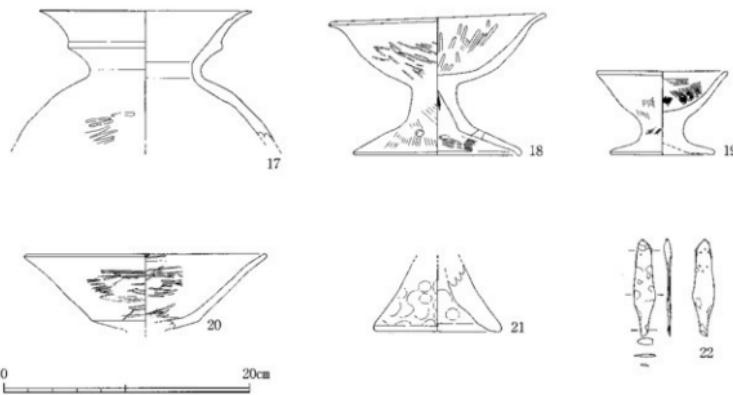


図52-2 93-B区-ST 2 出土遺物

土坑・溝跡・P・遺物包含層（B区） （B区 図54 附属全体図）

出土遺物（図53）

弥生土器では鉢（1）、壺（2）が出土している。壺、壺とともに内面に刷毛目、壺は外面叩き目、刷毛目がみられる。また壺は胴部内面に指圧調整がみられる。

ピット、包含層遺物は土師質土器、土錐が出土している。土師質土器は精鍊された胎土が使われ、ロクロによる形成、底部は回転糸切り底である。弥生土器は壺、壺で内面は指圧による調整、外面は刷毛目による調整がなされている。器台の土製支脚は内外面ともに指圧による調整が施されている。

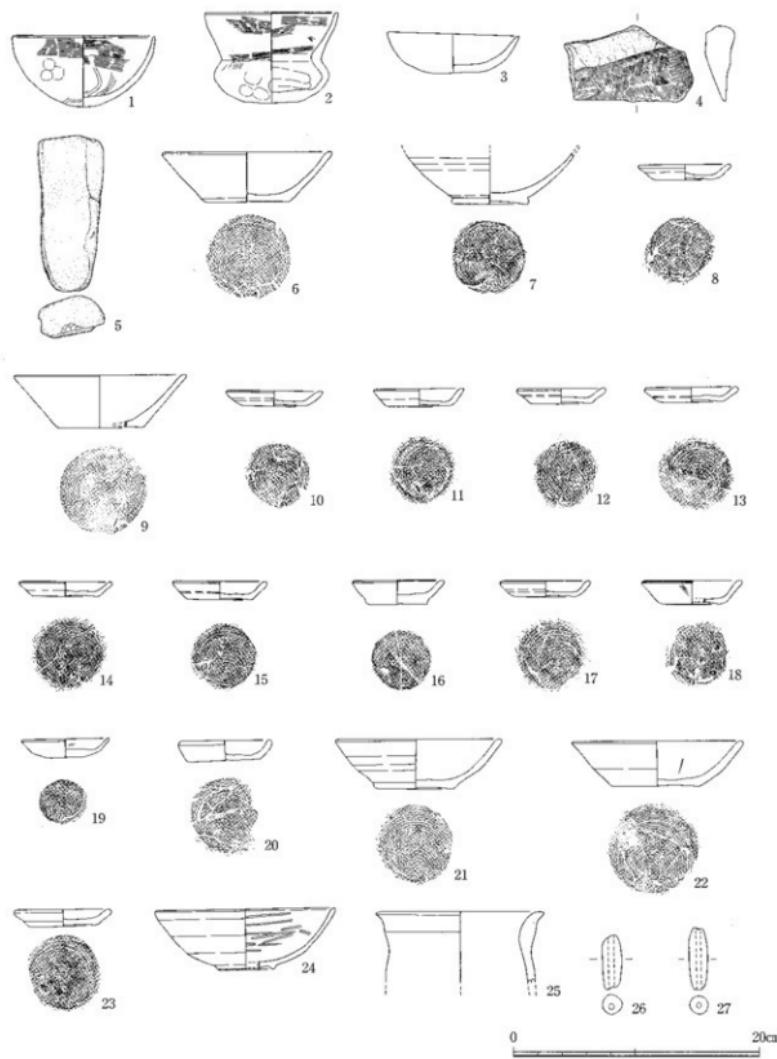


図53-1 93-B区-SK・SD・P・II層出土遺物

1992 A区ST-1遺物観察表

番号	地名	出土地点 遺構・層位	器類	種別	状量 (cm)			施土	焼成	色調	特徴 成形/焼撃/その他の
					上径	深さ	底径				
1	7 1	88 A区 ST-1・2 1層・サブ	鉢	陶生土器	6.0			0.5~2mm程度の砂粒を含む	内面: 7.9BB/4にぶい黄 外面: + 施土: -		
2	7 2	90 A区 ST-1	鉢	陶生土器	11.6	3.0		0.5~3mm大の砂粒を含む	やや良 内面: 5BB/8暗 外面: 7.9BB/5暗 施土: -		
3	7 3	9 A区 ST-1	鉢	陶生土器	9.0	3.0	1.8	0.5~3mm大の砂粒を含む	不良 内面: 10BB/4浅黄 外面: 5BB/4にぶい黄 施土: -		
4	7 4	80 A区 ST-1	鉢	陶生土器	12.4			1~3mm程度の砂粒を含む	やや良 内面: 5BB/6暗 外面: + 施土: -		
5	7 5	82 A区 ST-1	鉢	陶生土器	13.0	6.7		0.5~3mm大の砂粒を含む	やや良 内面: 5BB/6暗 外面: 7.5BB/6暗 施土: -	内面糊毛目/ナダ	
6	7 6	79 A区 ST-1	鉢	陶生土器	16.0			1~3mm程度の砂粒を含む	やや良 内面: 5BB/6暗 外面: + 施土: -	内面糊毛目	
7	7 7	81 A区 ST-1	鉢	陶生土器		7.4		1~3mm程度の砂粒を含む	やや良 内面: 7.5BB/6暗 外面: 5BB/6暗 施土: -	内面糊毛目	
8	7 8	8 A区 ST-1	鉢	陶生土器		5.7		1~3mm程度の砂粒を含む	良 内面: 10BB/2浅黄 外面: 10BB/2にぶい黄 施土: -	内面糊毛目 外面糊毛目	
9	7 9	78 A区 ST-1	鉢	陶生土器	13.6			0.1~2mm程度の砂粒を含む	やや良 内面: 10BB/4にぶい黄 外面: + 施土: -	内面糊毛目 外面糊毛目	
10	7 10	76 A区 ST-1	鉢	陶生土器	14.0			0.5~2mm程度の砂粒を含む	良 内面: 10BB/4にぶい黄 外面: 7.5BB/6暗 施土: -	内面糊毛目 外面糊毛目	
11	7 11	6 A区 ST-1	鉢	陶生土器				1~3mm程度の砂粒を含む	良 内面: 10BB/3にぶい黄 外面: 10BB/4にぶい黄 施土: -	内面糊毛目 外面糊毛目	
12	7 12	77 A区 ST-1	鉢	陶生土器	14.0			1~2mm程度の砂粒を含む	良 内面: 10BB/3にぶい黄 外面: 10BB/4にぶい黄 施土: -	内面糊毛目 外面糊毛目	
13	7 13	5 A区 ST-1	鉢	陶生土器	15.2			1~2mm大の砂粒を含む	やや良 内面: 10BB/4にぶい黄 外面: + 施土: -	内面糊毛目/陶任調整 外面糊毛目/叩き目	
14	7 14	74 A区 ST-1	鉢	陶生土器	17.0			0.5~2mm大の砂粒を含む	やや良 内面: 5BB/6暗 外面: + 施土: -	内面糊毛目 外面糊毛目	
15	7 15	3 A区 ST-1	鉢	陶生土器	18.4			0.5~2mm大の砂粒を含む	良 内面: 10BB/4にぶい黄 外面: + 施土: -	内面糊毛目 外面糊毛目/叩き目	
16	7 16	3 A区 ST-1	鉢	陶生土器	14.4			0.5~2mm大の砂粒を含む	やや良 内面: 10BB/6黄 外面: + 施土: -	内面糊毛目/口縁部糊毛目 外面糊毛目	
17	7 17	4 A区 ST-1	鉢	陶生土器	16.0			1~3mm程度の砂粒を含む	良 内面: 7.5BB/4にぶい黄 外面: 7.5BB/6暗 施土: -	内面糊毛目/陶任調整 外面糊毛目/叩き目	
18	7 18	1 A区 ST-1	鉢	陶生土器	21.0			2~3mm大の砂粒を含む	良 内面: 5BB/6暗 外面: + 施土: -	内面糊毛目/調整 外面糊毛目	
19	7 19	83 A区 ST-1	底部	陶生土器				1~3mm程度の砂粒を含む	やや良 内面: 2.5BB/4暗灰 外面: 7.5BB/4にぶい黄 施土: -	内面糊毛目	
20	7 20	86 A区 ST-1	底部	陶生土器		2.4		1~3mm大の砂粒を含む	やや良 内面: 10BB/4にぶい黄 外面: 5BB/4にぶい黄 施土: -	内面糊毛目/調整 外面糊毛目	
21	7 21	84 A区 ST-1	底部	陶生土器		2.8		0.5~2mm大の砂粒を含む	やや良 内面: 10BB/3にぶい黄 外面: + 施土: -	外面糊毛目	
22	7 22	7 A区 ST-1	底部	陶生土器		3.0		0.5~2mm大の砂粒を含む	良 内面: 7.5BB/6暗 外面: + 施土: -	内面糊毛目 外面糊毛目	
23	7 23	85 A区 ST-1	底部	陶生土器		5.2		0.5~2mm大の砂粒を含む	やや良 内面: 10BB/3にぶい黄 外面: + 施土: -	内面糊毛目 外面糊毛目	
24	7 24	87 A区 ST-1	底部	陶生土器		4.6		0.5~2mm大の砂粒を含む	やや良 内面: 2.5BB/3灰 外面: 10BB/4にぶい黄 施土: -	底部に1.5cmの摩孔あり	
25	7 25	98 A区 ST-1	口縁部	瓦質土器	31.0	推定			不良 内面: 5BB/6暗 外面: 5BB/4灰 施土: -		
26	7 26	75 A区 ST-1	口縁部	陶生土器	20.0	推定		0.5~2mm大の砂粒を含む	やや良 内面: 5BB/6暗 外面: + 施土: -		

番号 No.	国 No.	写真 No.	出土地点 遺構・施設	器種	種別	法量 (m)			歯土	焼成	色調	特徴 成形/調整/その他
						口径	脚高	底径				
75	12 16	154	A区 ST-4	鉢	弥生土器				2~4mm程度の砂粒 を含む	やや良	内面：7.5YR6/4に近い橙 外周：7.5YR5/4に近い褐 背面：-	外面叩き目
76	12 17	39	A区 ST-4	鉢	弥生土器	16.4			2~3mm程度の砂粒 を含む	良	内面：7.5YR6/6橙 外周：+ 背面：-	内面刷毛目 外面叩き目
77	12 18	155	A区 ST-4	鉢	弥生土器	19.4	5.1	4.0	2~3mm程度の砂粒 を含む	良	内面：7.5YR7/6橙 外周：+ 背面：-	内面刷毛目 外面叩き目
78	12 19	40	A区 ST-4	鉢	弥生土器	14.6	5.9	3.0	2~4mm程度の砂粒 を含む	やや良	内面：7.5YR6/6橙 外周：+ 背面：-	内面ナデ
79	12 20	146	A区 ST-4	鉢	弥生土器	15.4	6.5	4.0	1~3mm程度の砂粒 を含む	やや良	内面：10YR6/4に近い黄褐 外周：+ 背面：-	内面刷毛目
80	12 21	162	A区 ST-4	底部	弥生土器				3~5mm程度の砂粒 を含む	やや良	内面：2.5Y4/4暗灰黄 外周：10YR5/6黄褐 背面：-	内面ナデ
81	12 22	160	A区 ST-4	底部	弥生土器				4.4	やや良	内面：7.5YR6/6橙 外周：+ 背面：-	内面叩き目
82	12 23	153	A区 ST-4	底部	弥生土器				3~4mm程度の砂粒 を含む	やや良	内面：7.5YR6/4に近い橙 外周：7.5YR6/6橙 背面：-	外面刷毛目
83	12 24	151	A区 ST-4	底部	弥生土器				3~5mm程度の砂粒 を含む	不良	内面：3YR6/4に近い橙 外周：3YR6/6橙 背面：-	
84	12 25	149	A区 ST-4	底部	弥生土器				2~4mm程度の砂粒 を含む	やや良	内面：7.5YR6/6橙 外周：+ 背面：-	内面刷毛目
85	12 26	131	A区 ST-4	裏 口縁部	弥生土器				2~4mm程度の砂粒 を含む	やや良	内面：7.5YR6/6橙 外周：7.5YR6/4に近い橙 背面：+	内面刷毛目 内面ナデ
86	12 27	132	A区 ST-4	鉢 口縁部	弥生土器				1~4mm程度の砂粒 を含む	良	内面：7.5YR7/6橙 外周：+ 背面：-	内面刷毛目
87	12 28	117	A区 ST-4 裏 口縁部 腹部	弥生土器		20.0	15.1		2~4mm程度の砂粒 を含む	良	内面：10YR6/4に近い黄褐 外周：2.5YR6/5橙 背面：-	内面刷毛目 外面叩き目/ナデ/指圧調整
88	12 29	115	A区 ST-4	裏 口縁部	弥生土器				3~5mm程度の砂粒 を含む	やや良	内面：10YR7/6に近い黄褐 外周：+ 背面：-	内面ナデ 外面LH端部下削毛目/叩き目
89	12 30	124	A区 ST-4	裏 口縁部	弥生土器				2~4mm程度の砂粒 を含む	やや良	内面：7.5YR6/4に近い橙 外周：+ 背面：-	内面刷毛目 外面叩き目
90	12 31	121	A区 ST-4	裏 口縁部 腹部	弥生土器	13.0			2~4mm程度の砂粒 を含む	良	内面：10YR6/6に近い黄褐 外周：+ 背面：-	内面LH端部刷毛目/ナデ 外面叩き目
91	12 32	122	A区 ST-4	裏 口縁部	弥生土器	14.0			1~4mm程度の砂粒 を含む	良	内面：7.5YR7/6橙 外周：3Z/黑 背面：-	内面刷毛目/ナデ 外面叩き目
92	12 33	120	A区 ST-4	裏 口縁部	弥生土器				1~3mm程度の砂粒 を含む	良	内面：7.5YR6/4に近い黄褐 外周：+ 背面：-	内面刷毛目 外面叩き目
93	12 34	120	A区 ST-4	裏 LH端部	弥生土器	13.4			2~3mm程度の砂粒 を含む	良	内面：7.5YR6/6橙 外周：10YR6/4に近い黄褐 背面：-	内面刷毛目 外面叩き目
94	12 35	125	A区 ST-4	裏 口縁部	弥生土器				1~2mm程度の砂粒 を含む	良	内面：7.5YR7/4に近い黄褐 外周：10YR6/3Cに近い黄褐 背面：-	内面刷毛目 外面叩き目
95	12 36	27	A区 ST-4	裏 口縁部	弥生土器	15.4			1~3mm程度の砂粒 を含む	良	内面：3YR6/6橙 外周：+ 背面：-	内面刷毛目 外面叩き目
96	12 37	25	A区 ST-4	裏 口縁部	弥生土器				2~3mm程度の砂粒 を含む	良	内面：3YR5/6暗赤褐 外周：+ 背面：-	内面刷毛目 外面叩き目
97	12 38	26	A区 ST-4	裏 口縁部	弥生土器				1~2mm程度の砂粒 を含む	良	内面：10YR7/4に近い黄褐 外周：+ 背面：-	内面刷毛目 外面叩き目
98	12 39	118	A区 ST-4	裏 口縁部	弥生土器	14.6			2~3mm程度の砂粒 を含む	良	内面：10YR7/3に近い黄褐 外周：+ 背面：-	内面刷毛目/ナデ 外面叩き目
99	12 40	116	A区 ST-4	裏 口縁部	弥生土器	13.4			2~3mm程度の砂粒 を含む	良	内面：10YR6/3に近い黄褐 外周：+ 背面：-	内面刷毛目/LH端部刷毛目
100	12 41	24	A区 ST-4	裏 胴部	弥生土器				1~3mm程度の砂粒 を含む	良	内面：7.5YR6/4に近い黄褐 外周：+ 背面：-	内面刷毛目 外面叩き目

番号	No	学段	出土地点 遺構・層位	器種	種別	法量 (cm)			地質	地成	色調	特徴 成形/調製/その他
						口径	器高	底径				
101	12 42	28	A区 ST-4	壺 口縁部	陶生土器	16.0			2~3mm程度の砂粒 を含む	灰	内面：SYBR/6盤 外面：* 腹面：-	内面糊毛目 外面叩き目
102	12 43	25	A区 ST-4	壺 口縁部 肩部	陶生土器	15.2			1~3mm程度の砂粒 を含む	灰	内面：SYBR/6盤 外面：* 腹面：-	内面糊毛目/ナデ 外面叩き目
103	12 44	114	A区 ST-4	壺 山腹部 肩部	陶生土器				2~4mm程度の砂粒 を含む	灰	内面：7.SYBR/6盤 外面：10SYR/4にぶい黄橙 腹面：-	内面糊毛目 外面叩き目
104	12 45	119	A区 ST-4	壺 山腹部 肩部	陶生土器				2~4mm程度の砂粒 を含む	灰	内面：10SYR/4にぶい黄橙 外面：* 腹面：-	内面ナデ 外面叩き目
105	12 46	145	A区 ST-4	壺 肩部	陶生土器		5.0		2~4mm程度の砂粒 を含む	灰	内面：10SYR/4にぶい黄橙 外面：7.SYBR/6盤 腹面：-	内面糊毛目/ナデ 外面叩き目/糊毛目
106	12 47	21	A区 ST-4	壺 山腹部 肩部	陶生土器	16.0			2~4mm程度の砂粒 を含む	やや良	内面：10SYR/3にぶい黄橙 外面：10SYR/3に明黄色 腹面：-	内面糊毛目/ナデ 外面叩き目
107	12 48	18	A区 ST-4	壺	陶生土器	13.7	21.0		2~4mm程度の砂粒 を含む	灰	内面：7.SYBR/6盤 外面：7.SYBR/3にぶい黄 腹面：-	内面糊毛目 外面叩き目
108	12 49	45	A区 ST-4	壺	陶生土器	10.8	13.1		1~3mm程度の砂粒 を含む	やや良	内面：10SYR/4にぶい黄橙 外面：10SYR/3にぶい黄橙 腹面：-	内面ナデ 外面叩き目
109	12 50	20	A区 ST-4	壺	陶生土器	16.0	28.3	4.0	2~4mm程度の砂粒 を含む	やや良	内面：7.SYBR/6盤 外面：* 腹面：-	内面糊毛目 外面叩き目
110	12 51	22	A区 ST-4	壺 肩部	陶生土器				2~3mm程度の砂粒	灰	内面：10SYR/4にぶい黄橙 外面：* 腹面：-	内面ナデ 外面叩き目
111	12 52	19	A区 ST-4	壺	陶生土器	10.0	20.6	3.5	3~4mm程度の砂粒 を含む	灰	内面：10SYR/4にぶい黄橙 外面：* 腹面：-	内面口縁部糊毛目/ナデ 外面叩き目
112	12 53	33	A区 ST-4	底部	陶生土器				1~3mm程度の砂粒 を含む	灰	内面：7.SYBR/6盤 外面：*	内面糊毛目 外面叩き目
113	12 54	157	A区 ST-4	底部	陶生土器				2~3mm程度の砂粒 を含む	灰	内面糊毛目 外面叩き目/糊毛目	内面糊毛目
114	12 55	160	A区 ST-4	壺 底部	陶生土器				2~3mm程度の砂粒 を含む	やや良	内面：7.SYR/6/4にぶい黄 外面：10SYR/4にぶい黄橙 腹面：-	内面ナデ 外面叩き目/糊毛目
115	12 56	158	A区 ST-4	底部	陶生土器				2~3mm程度の砂粒 を含む	やや良	内面：7.SYBR/4にぶい黄 外面：10SYR/4にぶい黄橙 腹面：-	内面ナデ 外面叩き目
116	12 57	152	A区 ST-4	底部	陶生土器		4.2		1~3mm程度の砂粒 を含む	灰	内面：SYBR/6盤 外面：* 腹面：-	内面糊毛目 外面叩き目
117	12 58	39	A区 ST-4	底部	陶生土器				2~3mm程度の砂粒 を含む	やや良	内面：7.SYR/6/4明褐色 外面：10SYR/3にぶい黄橙 腹面：-	内面ナデ 外面糊毛目/叩き目
118	12 59	163	A区 ST-4	底部	陶生土器			3.0	1~3mm程度の砂粒 を含む	やや良	内面：SYBR/6盤 外面：* 腹面：-	内面ナデ 外面叩き目
119	12 60	147	A区 ST-4	底部	陶生土器			3.8	2~3mm程度の砂粒 を含む	やや良	内面：7.SYR/1灰 外面：10SYR/4にぶい黄橙 腹面：-	内面ナデ 外面糊毛目
120	12 61	156	A区 ST-4	底部	陶生土器			3.4	2~3mm程度の砂粒 を含む	やや良	内面：7.SYR/6盤 外面：10SYR/4にぶい黄橙 腹面：-	外面叩き目
121	12 62	159	A区 ST-4	底部	陶生土器				2~3mm程度の砂粒 を含む	灰	内面：7.SYR/6/4明褐色 外面：7.SYR/6/4明褐色 腹面：-	内面糊毛目 外面叩き目/糊毛目
122	12 63	46	A区 ST-4	高杯 肩部	陶生土器				2~3mm程度の砂粒 を含む	やや良	内面：SYBR/6盤 外面：* 腹面：-	外面糊毛目
123	12 64	134	A区 ST-4	壺 口縁部	陶生土器	32.0			2~3mm程度の砂粒 を含む	灰	内面：7.SYR/3/2黄橙 外面：SYR/2/2盤 腹面：-	内面糊毛目 外面口縁部ヘラによる施文/頸 部糊毛目
124	12 65	127	A区 ST-4	壺 口縁部	陶生土器	15.0	5.0		1~4mm程度の砂粒 を含む	やや良	内面：SYBR/6盤 外面：* 腹面：-	外面糊毛目
125	12 66	133	A区 ST-4	壺 山腹部	陶生土器	16.0			1~4mm程度の砂粒 を含む	やや良	内面：SYBR/8盤 外面：* 腹面：-	内面糊毛目 外面糊毛目
126	12 67	158	A区 ST-4	壺 口縁部	陶生土器	19.2			2~4mm程度の砂粒 を含む	やや良	内面：SYR/8盤 外面：* 腹面：-	内面糊毛目 外面糊毛目

番号 No	図 No	写真 No	出土地點 遺物・層位	器形 口縁部	種類 生土器	法量 (cm)			勘上	焼成	色調	特徴 成形・質感/その他
						口径 外径	器高 内径	底径 底				
253	36	252	C区 II層	口縁部	生土器	13.2			0.5~2mmの砂粒を含む	良	内面: 5.5TBG/6粒 外面: * 断面: -	
254	36	280	C区 II層	杯	土師質土器	13.8	推定		0.5~1.5mmの大砂粒を含む	やや良	内面: 5.5TBG/6粒 外面: * 断面: -	クロロによる形成
255	36	261	C区 II層	杯	口縁部	13.5	推定		1~1.5mmの大砂粒を含む	やや良	内面: 10TBG/4浅黄褐 外面: * 断面: -	クロロによる形成
256	36	282	C区 II層	杯	口縁部				1~2mmの大砂粒を含む	不良	内面: 5TBG/6粒 外面: * 断面: -	クロロによる形成
257	36	279	C区 II層	碗	土師質土器	13.0	推定		0.5~1mmの大砂粒を含む	不良	内面: 5.5TBG/4浅黄褐 外面: * 断面: -	
258	36	278	C区 II層	杯	口縁部	12.2	推定		1~2mmの大砂粒を含む	良	内面: 2.5TBG/3淡黄 外面: * 断面: -	クロロによる形成
259	36	276	C区 II層	杯	口縁部	13.0	推定		0.5~1mmの大砂粒を含む	良	内面: 10TBG/4にぶい黄褐 外面: * 断面: -	クロロによる形成
260	36	277	C区 II層	杯	口縁部	16.0	推定		0.5~1mmの大砂粒を含む	不良	内面: 10TBG/4浅黄褐 外面: * 断面: -	クロロによる形成
261	36	255	C区 II層	碗	生土器		4.4		0.5~2mmの大砂粒を含む	やや良	内面: 5TBG/6にぶい黄褐 外面: 10TBG/4にぶい黄褐 断面: -	
262	36	290	C区 II層	杯	底部		4.0		0.5~1mmの大砂粒を含む	不良	内面: 5.5TBG/6浅黄褐 外面: * 断面: -	クロロによる形成
263	36	287	C区 II層	碗	土師質土器	1.4	5.3	推定	1~2mmの大砂粒を含む	良	内面: 10TBG/3浅黄褐 外面: * 断面: -	クロロによる形成
264	36	288	C区 II層	杯	底部		5.4		0.5~1mmの大砂粒を含む	不良	内面: 5TBG/6粒 外面: * 断面: -	クロロによる形成
265	36	284	C区 II層	碗	土師器		5.6		1~2mmの大砂粒を含む	やや良	内面: 2.5TBG/4淡黄 外面: * 断面: -	クロロによる形成
266	36	270	C区 II層	杯	底部		5.4		被覆された動土	良	内面: 36/0灰 外面: * 断面: -	外側へラ、横ナデ/根拠ナデ
267	36	288	C区 II層	杯	底部		7.0	推定	0.5~1mmの大砂粒を含む	不良	内面: 10TBG/4浅黄褐 外面: * 断面: -	内外面クロ横ナデ 直拠手切り ベタ底
268	36	285	C区 II層	杯	底部		5.6	推定	1~1.5mmの大砂粒を含む	やや良	内面: 10TBG/4にぶい黄褐 外面: * 断面: -	内外面ナデ仕上げ 直拠手切り
269	36	274	C区 II層	杯	底部				0.5~1mmの大砂粒を含む	良	内面: 7.5TBG/1灰 外面: * 断面: -	内外面クロによる形成 直拠手切り
270	36	283	C区 II層	杯	底部		7.0		0.5~1mmの大砂粒を含む	やや良	内面: 10TBG/4浅黄褐 外面: * 断面: -	内外面クロ横ナデ 直拠手切り ベタ底
271	36	286	C区 II層	杯	底部		7.8	推定	0.5~1mmの大砂粒を含む	やや良	内面: 2.5TBG/3淡黄 外面: * 断面: -	内表面ナデ仕上げ 直拠手切り
272	36	297	C区 II層	口縁部	土師器				0.5~1.5mmの大砂粒を含む	良	内面: 5TBG/6粒 外面: * 断面: -	外側へラ、横ナデ
273	36	273	C区 II層	底部	底部		6.1	推定	0.5~2mmの大砂粒を含む	良	内面: 36/0灰 外面: * 断面: -	内表面クロ横ナデ ベタ底
274	36	258	C区 II層	底部	生土器		3.8		1~2mmの大砂粒を含む	良	内面: 7.5TBG/6浅黄褐 外面: * 断面: -	内外面に網毛目
275	36	260	C区 II層	手四土器	生土器		3.4		0.5~1mmの大砂粒を含む	良	内面: 3TBG/4にぶい赤褐 外面: 7.5TBG/3にぶい赤褐 断面: -	内外面ナデ仕上げ
276	36	261	C区 II層	底部	生土器		3.2		0.5~1mmの大砂粒を含む	良	内面: 7.5TBG/6粒 外面: * 断面: -	横ナデ
277	36	272	C区 II層	碗	口縁部		19.0	推定	被覆された動土	良	内面: 5TBG/4壁オーリーブ 外面: 33/0灰 断面: -	内外面クロナデ調整
278	36	253	C区 II層	杯	口縁部		12.6	推定	0.5~2mmの大砂粒を含む	不良	内面: 7.5TBG/9壁 外面: * 断面: -	外側印き目

番号 No.	国 No.	写真 No.	出土地点 東港・層位	語盤	種別	法面 (m)			地上	造成	色調	特徴 成形／調整／その他
						口径	基高	高倍				
279 36 30	256	C区 Ⅲ層	東 底部	海生土器					1~2mm大の砂粒を含む	良	内面：10m/6壁 外面：10m/4に赤い黄裡 断面：-	外壁叩き目／網毛目
280 35 31	254	C区 Ⅲ層	東 底部	海生土器			5.1 標準		0.5~2mm大の砂粒を含む	やや良	内面：10m/6壁 外面：2.5m/1灰黄 断面：-	
281 36 32	271	C区 Ⅲ層	口 縁部	須恵器	16.2 確定				構造された鉢土	良	内面：10m/6壁 外面：> 断面：-	
282 36 33	257	C区 Ⅲ層	東 底部	海生土器			1.6		0.5~2mm大の砂粒を含む	良	内面：10m/5/1短柱 外面：10m/4に赤い黄裡 断面：-	外壁叩き目
283 36 34	259	C区 Ⅲ層	東 底部	海生土器			2.8 標準		1~2mm大の砂粒を含む	不良	内面：7.5m/6壁 外面：> 断面：-	内面タテ桔毛目
284 36 35	262	C区 Ⅲ層	東 底部	海生土器			6.6 標準		0.5~2mm大の砂粒を含む	良	内面：10m/7/3に赤い黄裡 外面：5m/6壁 断面：-	内面タテナナマ
285 36	259	C区 Ⅲ層	東 底部	海生土器					0.5~1mm大の砂粒を含む	良	内面：5m/6壁 外面：> 断面：-	外壁ヘラ、楕ナマ
286 36 37	264	C区 Ⅲ層	十輪支脚 突起	器台					1~2mm大の砂粒を含む	良	内面：10m/7/4に赤い黄裡 外面：> 断面：-	捺压調整
287 36 38	263	C区 Ⅲ層	土製丸軋	器合					1~2mm大の砂粒を含む	良	内面：2.5m/4短柱 外面：> 断面：-	外山廻圧調整
288 36 39	266	C区 Ⅲ層	土製支脚	器台					1~2mm大の砂粒を含む	良	内面：10m/8壁 外面：7.5m/6壁 断面：-	
289 36 40	261	C区 Ⅲ層	東 底部	海生土器					0.5~2mm大の砂粒を含む	不良	内面：7.5m/8/8短柱 外面：5m/6壁 断面：-	外面タテ刷毛目
290 36 41	275	C区 Ⅲ層	高环 脚部	須恵器					構造された鉢土	良	内面：10m/6/灰 外面：> 断面：-	ロクロによる形成 脚部に丸みの痕跡
291 36 42	265	C区 Ⅲ層	高环 脚部	須恵器					0.5~2.5mm大の砂粒を含む	良	内面：10m/7/2明黄褐 外面：> 断面：-	
292 36 43	291	C区 Ⅲ層	輪 口縁部	白磁	17.0 (確定)				構造された鉢土	良	内面：7.5m/2灰白 外面：> 断面：-	ロクロによる形成
293 36 44	293	C区 Ⅲ層	輪 口縁部	白磁	15.6 標準				構造された鉢土	良	内面：7.5m/2灰白 外面：> 断面：-	ロクロによる形成
294 36 45	292	C区 Ⅲ層	輪 口縁部	白磁	16.3 (確定)				構造された鉢土	良	内面：7.5m/3浅黄 外面：> 断面：-	ロクロによる形成

1993 A区S T-4 遺物観察表

番号 No.	国 G	年 N	出土点 遺物・層位	部類	種別	柱量 (cm) L:径 S:高 底径	鉢土	焼成	色調	特徴 成形/調整/その他	
19 1	41	41	A区 ST-4	鉢	陶生土器	11.0 推定	6.9	0.5~2mmの砂粒を 含む	良	内面: 10%以上ににおいて黄褐色 外面: 2.5%以上灰黒色 焼成: +	
20 2	44	40	A区 ST-4	鉢	陶生土器	11.7 推定		1~2.5mm程度の砂 粒を含む	良	内面: 10%以上ににおいて黄褐色 外面: 10%以上ににおいて黄褐色 焼成: +	
21 3	44	39	A区 ST-4	鉢	陶生土器	10.2 推定		0.5~2mm程度の砂 粒を含む	良	内面: 10%以上ににおいて黄褐色 外面: + 焼成: -	
22 4	44	35	A区 ST-4	鉢	陶生土器	12.0 推定	6.9	0.5~2mm程度の砂 粒を含む	良	内面: 10%以上ににおいて黄褐色 外面: + 焼成: -	
23 5	44	36	A区 ST-4	鉢	陶生土器	12.2 推定	5.8	2.2	0.5~2mmの砂粒を 含む	良	内面: 7.5%以上ににおいて黄褐色 外面: 7.5%以上ににおいて黄褐色 焼成: -
24 6	44	37	A区 ST-4	鉢	陶生土器	12.8 推定	6.4	3.8	0.5~2mmの砂粒を 含む	良	内面: 7.5%以上ににおいて黄褐色 外面: + 焼成: -
25 7	44	32	A区 ST-4	鉢	陶生土器	15.1 推定	6.2	1.4		良	内面: 3%以上に黄褐色 外面: + 焼成: -
26 8	44	33	A区 ST-4	鉢	陶生土器	15.0 推定	6.8		最大2mm小石含む	良	内面: 7.5%以上ににおいて黄褐色 外面: 10%以上ににおいて黄褐色 焼成: -
27 9	44	34	A区 ST-4	鉢	陶生土器	16.3 推定	7.9	4.5	細粒砂混じり	良	内面: 10%以上ににおいて黄褐色 外面: 10%以上ににおいて黄褐色 焼成: -
28 10	44	29	A区 ST-4	鉢	陶生土器	17.4	8.0		最大4mm小石を含 む	良	内面: 7.5%以上ににおいて黄褐色 外面: 2.5%以上ににおいて黄褐色 焼成: 2.5%以上灰黒色
29 11	44	160	A区 ST-4	裏 口縫部	陶生土器	16.0			0.5~2mm大の砂粒 を含む	良	内面: 10%以上ににおいて黄褐色 外面: + 焼成: +
30 12	44	22	A区 ST-4	裏 口縫部	陶生土器	14.9			0.5~2mm大の砂粒 を多く含む	良	内面: 7.5%以上ににおいて黄褐色 外面: + 焼成: 7.5%以上に
31 13	44	16	A区 ST-4	裏 口縫部	陶生土器	13.9 推定			最大3mm小石含む	良	内面: 7.5%以上ににおいて黄褐色 外面: 5%以上ににおいて黄褐色 焼成: 5%以上灰黒色
32 14	44	17	A区 ST-4	裏 口縫部	陶生土器	14.4			最大4mm小石をや や多く含む	良	内面: 7.5%以上ににおいて黄褐色 外面: 5%以上ににおいて黄褐色 焼成: -
33 15	44	163	A区 ST-4	裏 口縫部	陶生土器				最大5mm小石含む 2mm程度小石をや や多く含む	良	内面: 7.5%以上ににおいて黄褐色 外面: + 焼成: 7.5%以上に
34 16	44	15	A区 ST-4	裏 口縫部	陶生土器	16.2 推定			0.5~2mm大の砂粒 を含む	良	内面: 10%以上に黄褐色 外面: 2.5%以上ににおいて黄褐色 焼成: 2.5%以上灰黒色
35 17	44	166	A区 ST-4	裏 口縫部	陶生土器	12.9 推定			4mm程度の砂粒を やや多く含む	やや良	内面: 7.5%以上ににおいて黄褐色 外面: + 焼成: 7.5%以上灰黒色
36 18	44	14	A区 ST-4	裏 口縫部	陶生土器	12.1 推定			2~4mm程度の砂多 い	良	内面: 7.5%以上ににおいて黄褐色 外面: 10%以上ににおいて黄褐色 焼成: 10%以上灰黒色
37 19	44	13	A区 ST-4	裏 口縫部	陶生土器	14.3 推定			2~4mm程度の小石 を含む	良	内面: 7.5%以上ににおいて黄褐色 外面: 5%以上ににおいて黄褐色 焼成: 7.5%以上灰黒色
38 20	44	164	A区 ST-4	裏 口縫部	陶生土器				2mm程度小石混じ り	良	内面: 10%以上ににおいて黄褐色 外面: 10%以上ににおいて黄褐色 焼成: +
39 21	44	162	A区 ST-4	裏 口縫部	陶生土器				3~5mm程度の砂粒 をやや多く含む	やや良	内面: 10%以上ににおいて黄褐色 外面: 10%以上ににおいて黄褐色 焼成: 2.5%以上灰黒色
40 22	44	24	A区 ST-4	裏 口縫部	陶生土器	17.1			5mm程度の砂粒を やや多く含む	やや良	内面: 10%以上ににおいて黄褐色 外面: + 焼成: 10%以上灰黒色
41 23	44	18	A区 ST-4	裏 口縫部	陶生土器				2mm程度の砂粒を 含む	良	内面: 10%以上ににおいて黄褐色 外面: + 焼成: 10%以上灰黒色
42 24	44	26	A区 ST-4	裏 口縫部	陶生土器				2~5mm程度の砂粒 をやや多く含む	良	内面: 10%以上ににおいて黄褐色 外面: 10%以上ににおいて黄褐色 焼成: 10%以上灰黒色
43 25	44	19	A区 ST-4	裏 口縫部	陶生土器				2~5mm程度の砂粒 をやや多く含む	やや良	内面: 10%以上ににおいて黄褐色 外面: 10%以上ににおいて黄褐色 焼成: 10%以上灰黒色
44 26	44	20	A区 ST-4	裏 口縫部	陶生土器	15.4 推定			2mm程度の砂粒 を含む	やや良	内面: 10%以上ににおいて黄褐色 外面: 10%以上ににおいて黄褐色 焼成: 5%以上灰黒色

番号 No.	図 No.	表記 No.	出土位置 遺物・部位	標本	種別	法量(cm)			土質	成因	色調	特徴 形成/調整/その他	
						口径	深さ	底径					
147	46	75	A区 ST-5	東	海生土器	10.6	11.9	0.6	3mm程度の砂粒 石壳・莢壳を含む	やや良	内面：10787/3にぶい黄褐 外面：7.5SB7/4にぶい黄 断面：-	内面削毛目 外面削毛目	
148	46	74	A区 ST-5	東	海生土器	-	9.5	11.2	粗造された鉱土	良	内面：7.5SB6/4底貴重 外面：7.5SB6/4底貴重 断面：7.5SB6/4底貴重	内面研磨目 外面削毛目	
149	46	72	A区 ST-5	東	海生土器	13.2	-	-	3mm程度の砂粒を やや多く含む	不良	内面：10786/6底 外面：10787/3にぶい黄褐 断面：7.5SB6/4底貴重	内面ナダ 外面削毛目	
150	46	76	A区 ST-5	東	海生土器	15.9	15.6	16.7	2mm程度の砂粒を 多く含む	やや良	内面：10786/6にぶい黄褐 外面：10787/3にぶい黄褐 断面：7.5SB6/3にぶい黄	外表面削毛目 器皿部・茎部を含む	
151	46	178	A区 ST-5	東	海生土器	15.0	推定	-	5~6mm程度の小石 を含む	やや良	内面：5SB6/6底 外面：+ 断面：2.5SB6/6底	内面削毛目/扭屈痕ナダ 外表面削毛目	
152	46	173	A区 ST-5	東	海生土器	-	24.5	0.8	4mm程度の砂粒を やや多く含む	やや良	内面：7.5SB6/4にぶい根 外面：7.5SB6/4底 断面：7.5SB6/4底貴重	内面ナダ 外表面削毛目	
153	46	61	A区 ST-5	東	海生土器	14.0	-	-	最大5mm小石含む	やや良	内面：10784/7底灰 外面：5SB7/7底 断面：10788/7底貴重	内面削毛目 外表面削毛目	
154	46	176	A区 ST-5	東	海生土器	14.6	推定	-	最大2mm小石含む	やや良	内面：5SB7/6根 外面：+ 断面：10784/7底灰	口縁部内外削毛目	
155	46	66	A区 ST-5	東	海生土器	13.9	-	-	粗造された鉱土	良	内面：7.5SB6/4にぶい根 外面：7.5SB6/4底 断面：7.5SB6/4にぶい根	内面ナダ 外表面削毛目	
156	46	180	A区 ST-5	東	海生土器	16.8	推定	-	5~6mm程度の砂粒 をやや多く含む	良	内面：5SB7/6根 外面：7.5SB6/6根 断面：+	内面指注ナダ 外表面指注ナダ	
157	46	71	A区 ST-5	東	海生土器	-	15.6	-	最大1mm小石を含む 粗造された鉱土	良	内面：10784/7底灰 外面：5SB7/7底 断面：10784/7底灰	内面ナダ 外表面ナダ	
158	46	73	A区 ST-5	東	海生土器	14.4	17.6	-	最大2mm小石を含む 1mm程度小石亂じ 粗造された鉱土	良	内面：10784/7底灰 外面：10787/4にぶい黄褐 断面：10784/7底灰	内面削毛目 外表面削毛目	
159	46	174	A区 ST-5	東	海生土器	16.9	0.9	3~4mm程度の小石 を含む	良	内面：2.5SB7/6底 外面：2.5SB7/6底 断面：2.5SB7/6底	内面削毛目/扭屈ナダ 外表面削毛目/印き目		
160	46	78	A区 ST-5	東	海生土器	20.4	11.9	-	粗粒砂混じり粗造 された鉱土	良	内面：10782/4にぶい黄褐 外面：5SB7/7底 断面：7.5SB6/3底灰	内面削毛目 外表面削毛目	
161	46	77	A区 ST-5	東	海生土器	-	-	-	3mm程度の砂粒を 含む	良	内面：5SB6/6根 外面：+ 断面：5SB5/4にぶい根	内面ナダ 外表面ナダ	
162	46	191	A区 ST-5	東	海生土器	-	3.2	-	2mm程度の砂粒を 含む	良	内面：10786/3にぶい黄褐 外面：10787/4にぶい根 断面：2.5SB7/6底貴重	内面指注ナダ 外表面削毛目 底部に6mmの穿穴あり	
163	46	195	A区 ST-5	東	海生土器	-	1.2	-	2~3mm程度砂粒を 含む	良	内面：10786/3にぶい黄褐 外面：10786/4にぶい黄褐 断面：10785/2底灰	外表面削毛目 底部に6mmの穿穴あり	
164	46	81	A区 ST-5	東	海生土器	17.9	15.9	2.4	2~4mm程度の小石 を含む	良	内面：5SB6/6根 外面：7.5SB6/4にぶい根 断面：+	内面はナダによる調整が施され 底部に1cm程孔有り	
165	46	203	A区 ST-5	土製支撑	器台	7.6	推定	3.9	6.0	2mm程度の砂粒を やや多く含む	やや不良	内面：10786/3にぶい黄褐 外面：2.5SB6/3にぶい黄 断面：10785/1底灰	外表面指注ナダ
166	46	98	A区 ST-5	高环 骨部	海生土器	22.6	-	-	4mm程度小石含む	良	内面：5SB6/6根 外面：7.5SB6/6根 断面：-	内面削毛目 外表面削毛目	
167	46	97	A区 ST-5	高环 骨部	海生土器	20.4	6.9	-	粗造された鉱土	良	内面：5SB6/6根 外面：+ 断面：5SB4/2底灰	内面削毛目	
168	46	99	A区 ST-5	高环 骨部	海生土器	21.0	-	-	2mm程度の砂粒を 含む	良	内面：7.5SB6/6根 外面ナダ/扭屈によるヨコナダ 断面：+	内面ナダ 外表面ナダ/扭屈によるヨコナダ	
169	46	96	A区 ST-5	高环 底部 支撑	海生土器	-	5.6	13.6	3mm程度の砂粒を 多く含む	良	内面：7.5SB6/6底貴重 外面：7.5SB6/4底貴重 断面：10788/1底灰	扭屈ナダ	
170	46	200	A区 ST-5	東	土罐	-	-	6.6	粗造された鉱土	やや良	内面：10784/7底貴重 外面：10788/3底貴重 断面：10788/3底貴重	器軸条切り/模ナダ調整	
171	46	226	A区 ST-5	砾石	石器	6.0	全長 全幅	5.2	1.6 全幅	-	-	-	
172	46	227	A区 ST-5	砾石	石器	13.0	全長	7.7	4.1 全幅	-	-	-	

番号 No.	図 No.	写真 No.	出土場所 遺構・層位	器種	種別	法量 (cm)			地土	地成	色調	特徴 成形/調査/その他	
						口径 口径	深度 深さ	底径 底径					
229	52 6	126	B区 ST-2	鉢	陶生土器	11.1	5.8	4.1	3~6mm程度の小石を含む	良	内面: 10TBS/4にぶい黄橙 外側: シロ 底面: -		
230	52 7	131	B区 ST-2	鉢	陶生土器	11.0	4.2		1~2mm程度の小石を含む	良	内面: 7.5TBG/4にぶい黄橙 外側: シロ 底面: -	内面刷毛目	
231	52 8	123	B区 ST-2	鉢	陶生土器	12.7	6.1	2.7	砂粒をやや多く含む	良	内面: 7.5TBG/4にぶい黄橙 外側: 10TBS/4にぶい黄橙 底面: -	内面刷毛目	
232	52 9	124	B区 ST-2	鉢	陶生土器	13.2	5.0	1.6	1~3mm程度の小石をやや多く含む	良	内面: 10TBS/4にぶい黄橙 外側: シロ 底面: -	内面刷毛目 外表面刮削	
233	52 10	128	B区 ST-2	鉢	陶生土器	11.1	5.5		1~3mm程度の小石をやや多く含む	やや良	内面: 5TBG/6枚 外側: 7.5TBG/6枚 底面: -		
234	52 11	119	B区 口縁部	甌	陶生土器	15.7			3~6mm程度の小石をやや多く含む	不良	内面: 10TBS/4にぶい黄橙 外側: 10TBS/4にぶい黄橙 底面: 10TBS/4にぶい黄橙	内面刷毛目/LH標記付調査 外面刷毛目/LH標記付調査	
235	52 12	118	B区 ST-2	甌	陶生土器	16.0			2~4mm程度の小石を含む	やや良	内面: 7.5TBG/4にぶい黄 外側: 7.5TBG/4にぶい黄 底面: 2.5TBG/4に黄	内面刷毛目 外表面刮き目/口縁部付調査	
236	52 13	231	B区 ST-2	甌	陶生土器			1.6	小石を含む	良	内面: 10TBS/4時差場 外側: 7.5TBG/5枚 底面: 5TBG/5枚	内面刷毛目 外表面刮き目/刷毛目	
237	52 14	122	B区 口縁部	甌	陶生土器	8.3			小石を含む	良	内面: 10TBG/4にぶい黄橙 外側: 10TBG/4にぶい黄橙 底面: 10TBG/4に黄	内面ナメ 外表面口縁部にへらによる文様	
238	52 15	177	B区 ST-2	甌	陶生土器	17.6	24.2	3.2	小石を含む	良	内面: 10TBS/4にぶい黄橙 外側: 7.5TBG/5枚 底面: -	内面刷毛目 外表面刮き目/底面凹凸	
239	52 16	180	B区 ST-2	甌	陶生土器	15.0	33.9	2.6	小石を含む	良	内面: 10TBG/4にぶい黄橙 外側: 10TBG/4にぶい黄橙 底面: 10TBG/4に黄	内面刷毛目 外表面刮き目/刷毛目	
240	52 17	121	B区 ST-2	甌	陶生土器	17.6	新定		2~3mm程度の砂粒を含む	良	内面: 10TBG/4にぶい黄橙 外側: 10TBG/4に黄 底面: 10TBG/4に黄		
241	52 18	133	B区 ST-2	甌	陶生土器	17.6	11.7	13.6	1~2mm程度の砂粒	良	内面: 7.5TBG/4にぶい黄 外側: シロ 底面: -	内面刷毛目 外表面刷毛目	
242	52 19	134	B区 ST-2	甌	陶生土器	10.7	新定	6.9	8.4	3~3mmの砂粒を含む	やや良	内面: 7.5TBG/6枚 外側: 5TBG/6枚 底面: -	内面刷毛目 外表面刷毛目
243	52 20	135	B区 SF-2	高杯 杯部	陶生土器	20.0			1~2mm程度の砂粒を含む	良	内面: 7.5TBG/6枚 外側: 7.5TBG/6枚 底面: 5TBG/5枚	内面刷毛目 外表面刷毛目	
244	52 21	232	B区 ST-2	土報支釦	蓋台			10.2	2~3mm程度の砂粒を含む	良	内面: 10TBG/4灰白 外側: シロ 底面: 10TBG/4灰白	内面刮削調査 外表面刮削	
245	52 22	245	B区 ST-2	鉄製品 鉄錠	金製品 金錠	7.9 全长	1.8 全幅	0.6 全厚					

1993 B区P・SK・SD・II層遺物観察表

番号 No.	図 No.	写真 No.	出土場所 遺構・層位	器種	種別	法量 (cm)			地土	地成	色調	特徴 成形/調査/その他	
						口径 口径	深度 深さ	底径 底径					
256	53 1	187	B区 SK-4	鉢	陶生土器	11.6	5.8	3.6	1~3mmの砂粒を含む	良	内面: 5TBG/4にぶい赤褐色 外側: シロ 底面: 5TBG/6枚	内面刷毛目 外表面ナメ/刷毛目/擦痕	
257	53 2	136	B区 SK-4	甌	陶生土器	10.8	新定	6.5	1~2mmの砂粒を含む	良	内面: 7.5TBG/4にぶい赤褐色 外側: シロ 底面: 7.5TBG/4に黄	内面刷毛目 外表面ナメ/刷毛目/擦痕	
258	53 3	235	B区 SK-7	鉢	陶生土器	10.9	3.4	4.2	2~3mm程度の砂粒を含む	やや良	内面: 7.5TBG/4にぶい赤褐色 外側: 5TBG/6枚 底面: 7.5TBG/6枚		
259	53 4	243	B区 SK-1	壺石	石器	6.3 全长	10.6 全幅	2.5 全厚					
260	53 5	219	B区 P-253	叩石	石器	12.9 全长	5.4 全幅	3.5 全厚					
261	53 6	138	B区 P-53	柱	土報質土器	14.0	新定	4.1	7.0	焼隕された粘土	やや良	内面: 5TBG/6枚 外側: 7.5TBG/6枚 底面: 5TBG/6枚	ロクロによる形成/底部余留り
262	53 7	250	B区 P-303	柱	土報質土器			6.2	焼隕された粘土	やや良	内面: 7.5TBG/4にぶい赤褐色 外側: 7.5TBG/4に黄 底面: シロ	ロクロによる形成/底部余留り	

番号 No.	写真 No.	出土地及 着目・特徴	器種	新開	法量 (cm)			鉱土	焼成	色調	特徵 成形/調型/その他
					口径	器高	底径				
243	53 8	B区 P-53	豆	土師質土器	7.5	1.2	4.9	燒成された粘土	やや良	内面：SYR6/6櫻 外面：+ 削面：-	ロクロによる形成/底部余切り 底
244	53 9	B区 P-53	杯	土師質土器	14.3	4.3	7.1	燒成された粘土	良	内面：7.SYR6/6櫻 外面：+ 削面：-	ロクロによる形成/底部余切り 底
245	53 10	B区 P-53	豆	土師質土器	7.7	1.2	5.0	燒成された粘土	やや良	内面：SYR6/6櫻 外面：+ 削面：-	ロクロによる形成/底部余切り 底
246	53 11	B区 P-53	豆	土師質土器	7.3	1.5	5.2	燒成された粘土	やや良	内面：SYR6/6櫻 外面：+ 削面：-	ロクロによる形成/底部余切り 底
247	53 12	B区 P-53	豆	土師質土器	7.3	1.9	5.0	燒成された粘土	やや良	内面：SYR7/6櫻 外面：+ 削面：-	ロクロによる形成/底部余切り 底
248	53 13	B区 P-53	豆	土師質土器	7.6	1.2	5.0	燒成された粘土	やや良	内面：SYR6/6櫻 外面：+ 削面：-	ロクロによる形成/底部余切り 底
249	53 14	B区 P-53	豆	土師質土器	7.7	1.2	5.4	燒成された粘土	やや良	内面：SYR6/6櫻 外面：+ 削面：-	ロクロによる形成/底部余切り 底
250	53 15	B区 P-53	豆	土師質土器	7.7	1.5	5.2	燒成された粘土	やや良	内面：SYR6/6櫻 外面：+ 削面：-	ロクロによる形成/底部余切り 底
251	53 16	B区 P-53	豆	土師質土器	7.6	2.0	4.9	燒成された粘土	やや良	内面：10SYR6/4浅黄櫻 外面：+ 削面：-	ロクロによる形成/底部余切り 底
252	53 17	B区 P-53	豆	土師質土器	7.5	1.3	5.0	燒成された粘土	不 ^良	内面：SYR6/6櫻 外面：+ 削面：-	ロクロによる形成/底部余切り 底
253	53 18	B区 P-53	豆	土師質土器	8.1	1.9	4.8	燒成された粘土	良	内面：10SYR7/4に赤い背景 外面：7.SYR7/4に赤い背景 削面：-	ロクロによる形成/底部余切り 底
254	53 19	B区 P-53	豆	土師質土器	7.2	1.5	3.4	燒成された粘土	良	内面：SYR7/6櫻 外面：7.SYR7/4に赤い背景 削面：SYR6/4に赤い背景	ロクロによる形成/底部余切り 底
255	53 20	B区 P-53	豆	土師質土器	7.8	1.5	6.2	燒成された粘土	良	内面：7.SYR7/4に赤い背景 外面：+ 削面：-	ロクロによる形成/底部余切り 底
256	53 21	B区 P-53	杯	土師質土器	13.7	4.2	6.5	燒成された粘土	良	内面：SYR6/6櫻 外面：+ 削面：-	ロクロによる形成/底部余切り 底
257	53 22	B区 P-53	杯	土師質土器	14.1	4.0	7.2	燒成された粘土	良	内面：SYR6/6櫻 外面：+ 削面：7.SYR6/6櫻	ロクロによる形成/底部余切り 底
258	53 23	B区 TB-1	豆	土師質土器	8.1	1.4	5.7	燒成された粘土	良	内面：7.SYR6/3浅黄櫻 外面：7.SYR6/4浅黄櫻 削面：10SYR6/4浅黄櫻	ロクロによる形成/底部余切り 底
259	53 24	B区 II層	碗	瓦器	14.8 测定	4.9	4.5	燒成された粘土	良	内面：SYR6/1灰 外面：SYR5/1灰 削面：Z-STB-2灰白	内面粗面
260	53 25	B区 II層	碗	陶土器	14.0 测定			砂粒をやや多く含む	良	内面：SYR5/0明赤 外面：SYR5/0明赤 削面：SYR5/0明赤	内面粗面
261	53 26	B区 II層	土錠	土師質	4.5 全長	1.7 全幅	1.6 全厚	1~3mm程度の小石 をやや多く含む	良	内面：~ 外面：2.3SYR6/1黄灰 削面：~	
262	53 27	B区 II層	土錠	土師質	5.2 全長	1.6 全幅	1.5 全厚	1~3mm程度の小石 をやや多く含む	やや良	内面：~ 外面：2.3SYR6/1黄灰 削面：~	

第IV章 総括

土佐山田町久次遺跡は同分川水系の新改川右岸の微高地に立地する。遺跡の時期は弥生時代後期末から古墳時代初め、そして古墳時代後期、奈良、平安時代、中世と複合的な遺跡である。一地点において永続的な集落の営みが長期的に把握でき貴重な資料である。ただし、土佐山田町のひびのき遺跡やひびのきサウジ遺跡のように集落が集中して形成されているとは対照的に小さな農村集落的景観が推定できる。また本遺跡の北側では竪穴住居跡も散在的であり、弥生時代から古墳時代の集落形態の一つの指標となろう。また、今回は調査対象地外であったが微高地に形成された集落より低い低地の河川氾濫地域には水田などの遺構の存在も考えられるが今後の研究課題である。

本遺跡からは弥生時代後期終末から古墳時代初頭に位置付けられる住居跡群と出土遺物の資料が豊富に得られている。今回の報告において弥生土器の詳細な検討はしていないが弥生土器から古式土師器への土器の移行変化や県外よりの搬入土器などの検討は後日に期したい。

6世紀代の竪穴住居跡も確認されているがどれも後世の削平により残存状況が良くない。床面には僅かに焼土らしい炭片と焼け土が確認できる程度で住居の壁など殆ど残っていない状況である。

古代の遺構に関しては掘立柱建物跡が数十棟分検出されているが、一部には方形または円形の柱穴で造構出土遺物、包含層遺物には須恵器、土師器、縁釉陶器などの遺物が見られ、官衙的性格を帯びた遺構を示唆させる。そしてこれら古代の建物跡は古代の集落を研究する上で貴重である。大型の堀方を有する遺構や総柱の掘立柱建物跡など古代の農村における古代の集落形態の一例ともなる。

本報告書は出土遺物の約半分を実測報告したに過ぎず、今後の詳細な遺物の検討が望まれる。

図 版

(1992年)

図版1



A区 遺構検出状況



B区 遺構検出状況



A区 遺構検出状況



B区 遺構検出状況



A区 遺構検出状況



B区 遺構検出状況 (B区ST-1)



A区 遺構検出状況



B区 遺構検出状況 (B区ST-3)



B区 遺構検出状況



B区 遺構検出状況



B区 遺構検出状況 (B区ST-2)



B区 遺構完掘状況



B区 遺構検出状況 (B区ST-6)



B区 遺構完掘状況 (B区ST-1, ST-2)



B区 遺構検出状況 (B区ST-3)



B区 遺構発掘状況 (B区ST-1)

(1992年)

図版 3



B区 遺構完掘状況 (B区 ST-3、SB-1)



B区 遺構完掘状況 (B区 SB-2)



B区 遺構完掘状況 (B区 SB-1、ST-3)



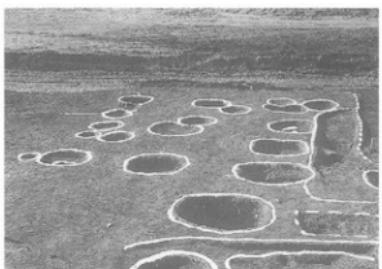
B区 遺構完掘状況 (B区 SD-6)



B区 遺構完掘状況



B区 遺構完掘状況 (B区 ST-1)



B区 遺構完掘状況 (B区 SB-1)



B区 遺構完掘状況 (B区 ST-2)



B区 遺構完掘状況



A区 遺構完掘状況 (A区ST-5)



A区 遺構完掘状況 (A区ST-1)



A区 遺構完掘状況 (A区ST-5)



A区 遺構完掘状況 (A区ST-1)



遺物出土状態 (遺物包含層)



A区 遺構完掘状況 (A区ST-4)



遺物出土状態 (遺物包含層)

(1992年)

図版5



遺物出土状態（B区 S D - 6）



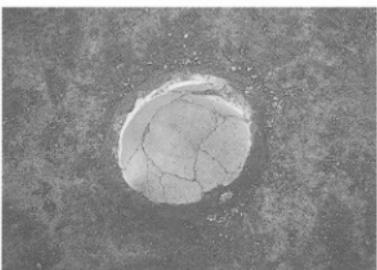
遺物出土状態（B区 P - 62）



遺物出土状態（B区 S T - 9）



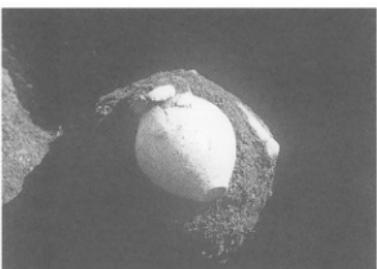
遺物出土状態（B区 P - 193）



遺物出土状態（B区 S T - 6）



遺物出土状態（B区 S T - 9）



遺物出土状態（B区 S D - 6）



遺物出土状態（A区 S T - 1）



遺物出土状態（遺物包含層）



遺物出土状態（遺物包含層）



遺物出土状態（遺物包含層）



遺物出土状態（遺物包含層）



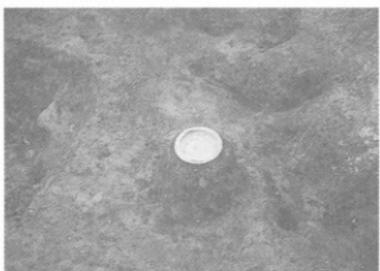
遺物出土状態（遺物包含層）



遺物出土状態（B区ST-1）



遺物出土状態（遺物包含層）



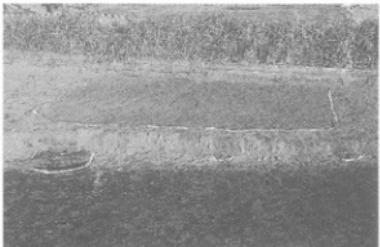
遺物出土状態（B区ST-5）

(1992年)

図版 7



C区 全景



C区 遺構検出状況 (C区ST-1)



C区 全景



C区 遺構検出状況 (C区SK-2)



C区 遺構検出状況



C区 遺構完掘状況 (C区ST-1)



C区 遺構検出状況



C区 遺構完掘状況 (C区SK-1)



C区 遺構完掘状況 (C区ST-1)



C区 遺物出土状態 (C区SK-2)



C区 遺構完掘状況



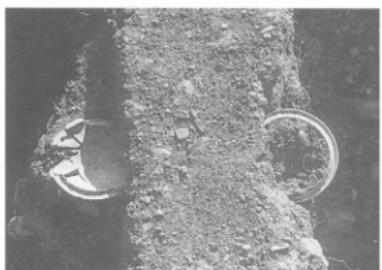
C区 遺物出土状態 (C区SK-2)



C区 遺構完掘状況 (C区SK-2)



C区 遺物出土状態 (C区ST-1)



C区 遺物出土状態 (C区SK-2)



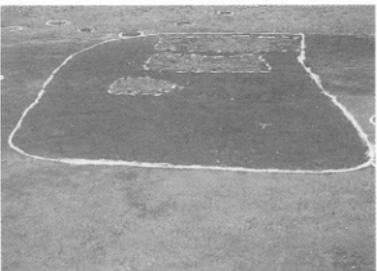
C区 遺物出土状態 (C区ST-1)

(1993年)

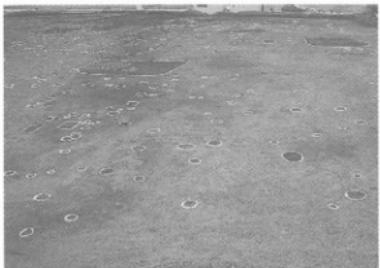
図版 9



A区 遺構検出状況



A区 遺構検出状況 (A区 ST-3)



A区 遺構検出状況



A区 遺構検出状況 (A区 ST-2)



A区 遺構検出状況



B区 遺構検出状況

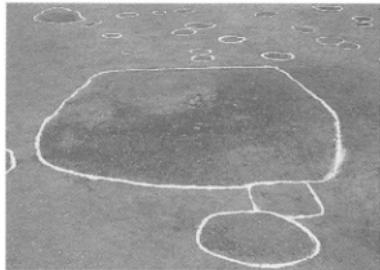


A区 遺構検出状況



B区 遺構検出状況

(1993年)



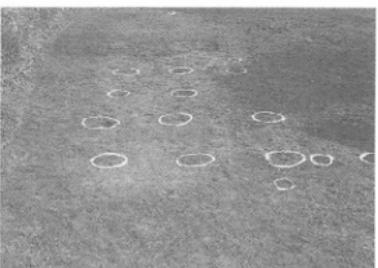
A区 遺構検出状況 (A区ST-1)



B区 遺構検出状況



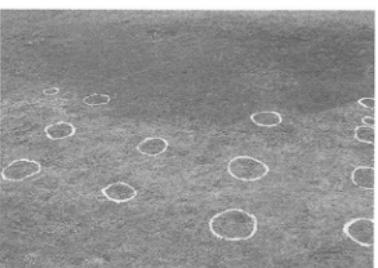
A区 遺構検出状況



B区 遺構検出状況



B区 遺構検出状況 (B区ST-2)



B区 遺構検出状況



B区 遺構検出状況 (B区ST-1)



B区 遺構検出状況